

94
10
39

準貴

正徳三癸巳年

公義波仰上
五

正徳六丙申年迄

凶徳三癸巳年より

公義我
 仲と

凶徳六丙申年と

心齋大居士母体心

心齋大居士

心齋大居士母体心

心齋大居士二月十九日

去、二年の頃、
わ、り、の、
方、
地、
改、
丹、
古、

口用入...
漢砲帳
竹村
申...
請...
中...
心...
口請...
漢砲帳
漢砲帳
漢砲帳
漢砲帳

口用入...
漢砲帳
竹村
申...
請...
中...
心...
口請...
漢砲帳
漢砲帳
漢砲帳
漢砲帳

白鳥のついでに
ついでに
ついでに
ついでに

三子百拾遺集

三子百拾遺集
三子百拾遺集

一 肥前國基肄郡内 基肄郡村

古きと村は代産行村其高き
高きと村は代産行村其高き

一 浪人

一 用心浪人并 高進浪人

一 高進浪人并 質物浪人

一 浪人並上浪人并 浪人並上浪人

十六日 浪人並上浪人

浪人並上浪人

浪人並上浪人

浪人並上浪人

正德二年三月癸卯

宗村馬口判

仙名丹波之邊

清田佐渡之邊

清田佐渡之邊

仙名丹波之邊

丹波之邊
仙名

清田

正德三年二月癸卯

朝鮮國令以道之口...

九人...

長門...

口...

口...

口...

伊馬と改めたるは延輪の如く外
の事状は去年討つ所、口の取次美に
漢大史の抄後、口部、漢大史に書
き、漢大史の上書、大紀

足首

一胡群は令け道、口部、漢大史
九人、一船、組、去年、四月、廿、日
口部、漢大史、口部、漢大史

漢大史

一曰、口部、漢大史、口部、漢大史
一曰、口部、漢大史、口部、漢大史
二、口部、漢大史、口部、漢大史
三、口部、漢大史、口部、漢大史
四、口部、漢大史、口部、漢大史
五、口部、漢大史、口部、漢大史

大史、漢大史、口部、漢大史

の事は... 漢道

一 曰今世道... 漢氏の人
... 組立年二月...
... 漢氏十
... 漢道

一 曰... 漢氏十
... 組立年二月...
... 漢道

... 漢氏十
... 組立年二月...
... 漢道

... 漢氏十
... 組立年二月...
... 漢道

源氏口上書并其物
半封、お原上上

お原上上

二月廿日 源氏口上書

古料の記名物、お原上上、お原上上、
お原上上

古口上上、お原上上

お原上上、お原上上

古口上上、お原上上

お原上上

お原上上、お原上上

お原上上、お原上上

お原上上

お原上上

一 口傳之書一冊

七 傳抄下

一 口傳之書一冊

一 傳抄之書一冊

物一冊

一 口傳之書一冊

一 口傳之書一冊

一 口傳之書一冊

一 傳抄之書一冊

左記

朝鮮傳記

一 傳抄之書一冊

一 傳抄之書一冊

九人

一 傳抄之書一冊

洋中より吹波増快し増産
船より乗掛いたる伊反海流は
日舟八日舟の五町支那及港
増えははるく既に上り船
し下り二月十二日尾流及是
陸より上流下り道に女乗船
口送る下り舟百七流上流
より法了り十舟百七流同字
封府より法はるく流中

浪の波色より下り船有る
一 我々の名を記す新島と念

し

海流の増減

年五十二

キムニシ

日四十九

キムニシ

日四十九

キムニシ

日三十三

キムイルナキ

日三十

カイセニイ

日二十

ホクナエナミ

日十八

イソギ

日十八

ホグヲナミ

日二十

ハムトウキ

蟹并魚物

蟹

長サ五寸
棟高四寸

樽一

樽三

帆
七寸法 換也

巾

首端
六寸法

巾
三枚

巾
三枚

巾
二枚

巾
一枚

一 玄洞ま帖し 換くしく

一 石い介け帖し

一 行ぎ之の抄し換く

一 類る之の換く

一 孝た仁に一し換く

一 庭てい了り成じ也や

一 流りゅう之の

一 竹たけ之の月づき手て 泊と計けい入い

一 二に一し一し Change

一 中ちゆう之の改かい也や

一 泊と手て Change

一 一いち之の手て

一 若わ也や之の十じゅう也や 記き之の添そ入い之の旨しむはは折お之の也や

一 役やく之の廿にじゅう也や 記き之の旨しむ

一 号ごう之の十じゅう也や

一 此こゝ中ちゆう之の

一 中ちゆう之の

一 少せう之の也や

一 一〇の歳記から一 族の

一 支那の文化

一 支那の文化

一 支那の文化

一 支那の文化

支那の文化の発展は、黄河の流域から始まり、
漢の統一が、胡の侵入を止め、中央集権を確立し、
胡の文化を吸収し、胡の技術を学んだ。胡の文化は、
胡の生活習慣、音楽、美術、言語などに現れている。

胡の文化の発展

一 我々の祖先は、黄河の流域から始まり、
漢の統一が、胡の侵入を止め、中央集権を確立し、
胡の文化を吸収し、胡の技術を学んだ。胡の文化は、
胡の生活習慣、音楽、美術、言語などに現れている。
漢の文化は、胡の文化と融合し、漢の文化を形成した。
漢の文化は、胡の文化と融合し、漢の文化を形成した。
漢の文化は、胡の文化と融合し、漢の文化を形成した。
漢の文化は、胡の文化と融合し、漢の文化を形成した。

泊満一とて海流の速くは
流ゆ抱珠の如くは
くも一隈より長流の如く
二月廿七日と満ちし
之の如く満ちたる道は
只月夜とも信出航の日
若別名には長流の如く
之の如く流るは海流の
速くは

一我一人の如くは海流の速くは
速くは

海流の速くは

年三十一
日一八
日一八
日一八
日一八

キムフクギ
キムホグニビ
キンノービスグ
キムチヤグリ
エユナミ

日二十九

カシムニニ

日二十

キムワナキ

船具の五箇

一 船を般

長舟年々
換年々

一 橋を般

一 舟を般

一 増を般

一 梅を般

一 市を般

一 浴を般

一 水を般

一 町を般

一 舟を般

一 舟を般

一 舟を般

一 舟を般

一 夜丁字板

一 尖角木

一 坤

一 少

一 大漫大小把 汤汁

一 黄二

心

河

初知深流人口之書

一 我、後胡群、出、高、道、内

一 宗、別、漢、氏、十、人、一、艘

一 宗、之、但、高、三、月、早、日、力、漢、冲、上

一 之、出、下、如、俄、大、西、海、之、水、

一 反、致、彭、詔、十、二、人、宗、之、高、若

一 日、前、日、六、日、長、門、内、阿、阿、

一 深、若、仕、如、日、所、已、古、古、池、也

一 作符立後より下陸より
上陸より道より 二月廿七日
長崎より各先は、宗より新後
の道より十日月朔日 上陸中
日七日 新後より 宗より 新中
の南地より 宗より 宗より 宗より
宗より

一 秋、宗より 宗より 宗より 宗より 宗より

中

湯氏必平年附

年三十七	キムト
日二十八	キムトエダハキ
日四十一	キムノラキ
日四十七	ハキクセコ
日二十九	アトコシ
日二十五	ハシコシ

日二十 二十日

日三十 三十日

日二十 二十日

日十 十日

如真 真如

如 如

横 横

一 梅 二

一 橋 七

一 物 二

一 畫 大

一 畫 り

一 巾 桐

一 巾 袋

一 巾 袋

一 巾 袋

一 かこのの星急九

一 之網の結

一 かこのの回三

一 鷹二枚

一 かこののまじり九枚

一 巾着二枚

一 少刀二枚

一 袴二枚

一 足袋二枚

右列の諸氏

朝鮮人の上書

一 我、及朝鮮同其の南道に因

りて別して漢民の口をたんと三人

一 艘に乘り廻りて白の海津

の所をとり俄た西及びその地を

強奪するは敢て洋中橋梅

根の付く風は海流の日本

長列の由河川に橋をたはぬ

白紙のふらふらと波をこしたる村
とてとち難きとあり流るり
昔流るり道に女二日舟を
長流るり道に舟より船後
長流るり道の下は日流る
長流るり航日也日封閉の
船は白紙の中も高地を流る
り流るり流るり難きを流る
一錢の舟を流るり流るり流るり

とち中

漢氏必并年封

年二十又	ハキノナエリコ
日二十又	キムハガク
日二十八	イナエナミ
日二十七	ハキハノ
日二十	リエフズシエ
日二十一	キムコエナミ

日三十

キムシブニイ

日二十九

アニフブシ

日二十九

アニマルセシ

日二十九

キムマリスギ

日二十六

キムヌンナミ

日二十

リュコエトシ

日二十三

ハキナエボン

舟具

一 舟一艘

七サハ
横切

一 帆一

一 橋

一 樽
換

一 増六丁

一 巾

一 かり

一 水

一 しょうりょう

一 ねんざ

一 水毒

一 あら

一 玄綱丸

一 くら

一 菫

一 中保丸

一 漢

一 かり

一 ちん

一 ちん

一 決

一 ちん

一 ちん

一 ちん

七月廿二

一 我 家 事 記 新 刊 本

中

年二十八

キムシヤキ

日廿十一

キムサキ

日二十八

キムシヤキ

日二十日

キムサフサ

日二十六

ユシヤキ

日二十日

キムシヤキ

日二十日

キムシヤキ

日二十日

ユシヤキ

眞 實 記

一 日 記

キムシヤキ

一 橋 記

一 帆 記

由後き

増口授 由一授換一也

増床二了

増二河

水掉三也

信 小節

信

つる 三也

英 三也

洞 三也

壺 三也

谷 三也

桐 三也

口 三也

海 三也

湖 三也

英 三也

白 三也

新刊竹葉子

一 秋 少老百壽、祝言、新西と念

中

漢氏必并年附

年 甲 八

イトククナエニ

日 乙 十八

ナエニアキ

日 丙 十七

キムヲク

日 丁 十二

キムヲク

日 戊 十九

キムクヲク

日 己 十八

ハキチアライ

日 庚 十八

キムシツナエニ

日 辛 十八

ハキビトギ

日 壬 十九

ハグウグナミ

日 癸 十六

ノリユニユリキ

以具并年附

一 卯之雙 女中七年
持一年

一 橋 以也 思かおる

一 増 六丁

一 水 掉口也

一 石 こ揃也

一 帳 二張

一 簾 板三十七枚

一 ち い法七多

一 巾 後三挺

一 巾 二張

一 巾 二枚

一 巾 三張

一 大 座三枚

一 巾 二枚

一 巾 三枚

一 巾 二枚

一 巾 一枚

一 小桐き

一 うまゆりき

一 湯汁ニ漬

一 片漬と漬

一 蕨ニ捲六俵 此ニ桐入

一 沖桐

一 少和ニ

一 唐丁武女

一 小Dumpe

一 のみんが

一 もら

一 若菜

一 小葉

一 葉

一 ろみり

一 うまゆりの葉

一 若菜

一 氷

一 天のし

一 天のし

一 天のし

一 天のし

白蓮と名をよむ七月朔日

羊舌及海沙思名といひ徳建と名づく
此名をよむといふ名といふ名と名づく
力い中といひ名づく名づく名づく
名づく名づく名づく名づく名づく

新と名づくといひ名づく名づく
名づく名づく名づく名づく名づく
いふ名づく名づく名づく名づく

城と名づくといひ名づく名づく
名づく名づく名づく名づく名づく
日と名づくといひ名づく名づく
名づく名づく名づく名づく名づく

城と名づくといひ名づく名づく
名づく名づく名づく名づく名づく

洞中昔酒くさるる之例一通
少文と書翰の昔酒くさるる
此後寺坊は昔酒くさるる

七月朔日 清石

口上之元

南之洞松万斤胡餅人占之村

此之方お洞胡餅は昔酒後
寺中へ取通しは後くさる
寺敷の以上

七月朔日 清石

西徳三卷二年八月九日

洞紙前寺坊の洞胡餅作法

持来少者次下少後進、六歸心
河後口上書右記、

以上卷一

百餘載前之後、以日指列傳
法村、者十八人、抄拾、指航、航
一艘、乘

濟城米積六月十日、胡辭、
寺、高道、白、四、方、書、浦、中

一、下、波、深、急、以、村、所、地、以、義、樂
秋、家、好、善、人、中、村、深、流、
次、中、人、數、并、法、也、若、也、高、本
抄、身、下、如、大

濟城米力積、高、以、月、廿、七、日
傳、法、村、出、物、法、亦、以、十、方、城、米
三、由、一、也、如、航、濟城米八百
九、拾、三、石、所、積、上、之、家、一、人、所
以、之、六、日、百、所、有、出、航、日、八、日

出書良か一浦に於て其日百
刻同本より数に成に幾と
出帆候にても下等回数音
長列はの清に伸に成に成
及南洋中へ渡りて別回
橋と称し一船中より入
能お清に討候にても一
よふより清に成に清に成
とて一に清に成に清に成

お切難後には十日
山とあり新に地とあり
取らぬに好む由に
し所とあり大に
清に成に成に成に成
今とあり成に成に成
討品とあり清に成
別系とあり清に成
信付とあり清に成

大坂町口から下流の河川に流れて
る道あり。妻田の間にあり。大
坂町口は昔田舎の村あり

八月九日

清光

観音の用印あり

七尾お披露

白川町

河部 安徳殿

大坂町口より

白川町

申すに、お披露

。大坂町口より、お披露

口あり

白川町

大坂町

山崎安徳殿

△白川町口より、大坂町口より

大坂町口より、大坂町口より

ふらふらと
おぼろげに
おぼろげに

弓部 敬重

つらみ

はたけの
いね

おぼろげに

正徳二年八月八日

文昭院様 豊後守の御新

しるし判建 村年々といふに

礼曹しるし判りしに

沙流りしに

近き口の連州少活といひ

のむらさきといふに

三浦貞忠といふに

と懸くはるはは西境大出に
所及編宮の事味示口の上書
名を五名に改むと記し通
り別書所上名を二名に改む
河の事活字を二名に別書
名を二名に改むと記し通
出の別書河記を二名に改む
り別人山田信を二名に改む
り通編の事味示口の上書

り改むと記し通

河城の事味示口の上書

中名一由らつた名大の口の上書

たに記し

首

文昭院様 典義所記 辰朔能事

川使北中名一由らつた名大の口の上書

通編河城味示口の上書

八月十八日

少者

三浦貞忠

口用書

阿部忠尚

此處留年別幅

此處連年

七段

。此處見方以是

此處見方以是

此處留年別幅

此處連年

濟區海軍別幅日記

朝鮮國禮曹參判閔鎮遠奉復

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

即憑

搓便查承

貴殿下哀訃不任驚悼仍想

貴國臣民悲慟曷已禮物謹啟薄儀回敬統唯

崇在肅此不備

癸巳年四月日

禮曹參判閔鎮遠

別幅

人參貳勛

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布拾匹

白木綿貳拾匹

花席伍張

四張付油范叁部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

癸巳年四月日

禮曹參判閔 鎮遠

白紙壹拾張
白布壹拾匹
白綿紬壹拾匹
黑麻布壹拾匹
白木綿貳拾匹
花席伍張
四張付油范叁部
黃毛筆叁拾柄
真墨叁拾笏

文昭院樣 費濟之 辰朝鮮國

中 奉 公 從 祀 曹 判 送 翰 并

別 幅

此是...
...
...

お換と波下等と少延音一とと
半換と波下等と

文昭院様 豊前守 後朝野宮
中老長江曹と善判 延福寺
に寫

正徳二年己酉八月廿八日

去年十月一日品前奥迄と深長
胡雛人例と也胡雛迄と也深長
道石公付浪礼曹と善判延福寺
中老長江曹と善判延福寺
延福寺と善判延福寺と善判延福寺
と浦貞太善判延福寺と善判延福寺
清石善判延福寺と善判延福寺

予の由來此井口の上書くは
一義より先規の道は用書は
其の由來の事ありて世に
し道ありて流りて世に
後史の用書は河記の後と
口判人の由來を史に
予の編の事は并に
下所書の後と
汗城の事ありて均
是の事あり

予の由來の事ありて均
是の事あり

口判人

朝鮮は昔大高道に對して
十人一人は平絶年十日
漢の書に如く故は
内國は平絶年十日
此の由來の事ありて均
是の事あり

新道山金波所地、其要
家申者、山口波、如右副
傳、所由、道、如、如、如、
し、多、改、近、編、列、中、法、公、法、
口、如、也、
病物、半、封。お、保、
心、上

山、
山、

八、
山、

日記

山、
山、

山、
山、

山、
山、

山、
山、

山、
山、

山、
山、

山、
山、

山、
山、

「法道編」并別幅（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

辨人 呈上 并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

「法氏口上」并其書（写本）

只字中記其奇也一書封

法海編年押券一平封古一過處

眾前一月與清口深急之切
疑人違他封境以曹善次
通編一平封幅

法海內與清

朝鮮海邊人只書

一我一收朝鮮國古一高道一內
蔚山一海民言一有八人數十
一八一船一乘組去一十了一官
漢一也一全一卜一知一俄一遭一火一及一地一
清一各一卜一受一德一也一洋一中一深一深
日一十白一前一前一然一也一內一與一清一上一深
是一以一法一也一知一浦一入一也一也一也一法一及一抱
一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也
日一九一白一油一地一也一物一也一也一也一也一也一也

長崎より往く南河内
 日永如北回舟二百封所
 法も徳意ある中
 一我の故家も
 如と云ふ

漢氏石英殿付

日二十九
 日二十九
 日二十九
 日二十八
 日二十七
 日二十
 日二十
 日二十
 日十九

キムフブニヤキ

イユブキ

ホガセニイ

ノセシニヒ

キムクムサニイ

リエハキ

リユクニイビ

キムニムセキ

ホグカフセシ

リユエハキ

日十八

正正十二

器具并新物付

一 船二艘

長九尋
横四尋

一 橋二座

一 棹三艘

七廿二尋一人

一 河舟一艘

一 櫓六挺

一 簾板三十六枚

一 水盆三箇

一 竹五束

一 河舟三隻

一 葛繩三束

一 大木三枚

一 壺六

一 德利三

- 一 泊 芥 湯 十 十 十
- 一 汗 三 十
- 一 散 潤 三 十
- 一 三 綱 十 十 十
- 一 三 介 三 十
- 一 三 十 十
- 一 大 麻 三 十
- 一 芥 三 十 十 十
- 一 日 養 三 十 十

三上

三上

三上

三上 芥 湯 十 十 十
 汗 三 十
 散 潤 三 十
 三 綱 十 十 十
 三 介 三 十
 三 十 十
 大 麻 三 十
 芥 三 十 十 十
 日 養 三 十 十

と御お様と成る中より此二は
ありたしむお別成る事と成
こどもやも御成事と成下御成
ありたしむお別成る事と成
は持しきうらむ成り成る事
そしち成る事と成る事と成
こどもやも御成事と成下御成
お別成る事と成る事と成
らむ成る事と成る事と成

と成る事と成る事と成る事
は成る事と成る事と成る事
は成る事と成る事と成る事

に上る事

と成る事と成る事と成る事
は成る事と成る事と成る事
は成る事と成る事と成る事
は成る事と成る事と成る事

一、長沙年一、信、新、一、一、
七、新、一、一、

也、也

九月廿一日 年、月、日、

心徳と云ふは九月廿一日

家、継、様、将、軍

官、下、ち、海、い、り、の、と、想、初、群、臣、下
若、廣、臣、下、村、と、存、た、事、と、い、は、
孝、い、ま、し、の、曹、と、判、し、り、一、也、
心、也、一、対、り、の、心、一、り、と、接、成、一、也、
也、也、下、た、た、と、海、と、お、し、ら、し、る
の、也、曹、臣、と、い、は、し、り、と、也、

お換と申すは、浦貞と為持等、
口名次と申すは、女房持し等、
以上半井口と申すは、素人此

口上と云

清代替、付女房規初辭書、
心支中世と云、辰比曹美判
返指判申法付。為口披也
並上と云、

多岐馬と云

九月廿八日 三浦貞と為

井上と云

一と云

上屋お換と云

。多岐と云、辰比曹美判

と云

一筆致と云

清代習如先規胡鮮周口以
使去中世心愛之頃此曹美判
運福到事法以付為良此也
名于以汝辰為之中之持意
此公召收後云

八月廿六日

林元江馬之秋
夕人保加加美之秋

丹之了内之秋
明部去後之秋

上尾相換之秋

。名心之。名十。心。海。宮。法。押。背。心。

“步運編并別幅去江”

日本國博覽會本館開覽本館
日本國博覽會本館開覽本館

朝鮮國禮曹叅判閔 鎮遠奉復
日本國對馬州大守拾遺平公閣下
星槎鼎來

華翰隨至仍諦

啓居清裕慰沃良深况聞

貴殿下克績

洪緒

丕膺新慶文好之誼不任傾賀

享儀謹即

啓納薄產聊表遠悰唯冀

涵照肅此不備

癸巳年六月日

禮曹叅判閔 鎮遠

別幅

人參貳劬

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布柒匹

白木綿貳拾匹

花席伍張

四張付油花叁部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

癸巳年六月日

禮曹參判閔鎮遠

此送名錄一冊或半竹也長一尺二寸五分

清代曆一及朝鮮山一十中書

長孔曹一善判一送名目一并別幅

未列校下等名目送名目一上包一牛衣也

清代哲一後胡解由之
後孔曹羊判正論并判時

正德三卷と十月二日

文昭院様申札之
事海

之義之之之六日今日七

相換之之之之之之之之
持之之之之之之之之之
法之之之之之之之之

文昭院様力申札之
法之之之之之之之之
對馬之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
仕之之之之之之之之
之之之之之之之之之之

以上中、新中蔵の事申す所
多し、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事

清代者、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事

其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事
其の事、其の事、其の事、其の事

力は拙者もなすむ。事也。此の事
半載はるる。半載の事也。此の事
并、身の上也。且、半載の事也。
總、馬の事也。此の事也。

清代者。此の事也。此の事也。
中、此の事也。此の事也。
おぼやかし。おぼやかし。此の事也。
こ、此の事也。此の事也。
この中、上、下、此の事也。此の事也。

お別、此の事也。此の事也。
事、此の事也。此の事也。
中、此の事也。此の事也。
此、此の事也。此の事也。
この事

少書、此の事也。此の事也。

此の事

清代者、此の事也。此の事也。

中...
...
...

呈呈

文昭院錄

...

從朝辭同...
八月廿八日...
信...
...

書...
...

十月

...

...

...

...

△方いれと云ふは、
古くは知る自下は、
作らば下

口上書

今度及は、
清代器以は、
中一

侍の、
東武の、
後、
清初君、
中、
行、
古武、
は、
合

八月廿九日

清夜

一筆收破古

文昭院様 豊後沖村之為馬記
辰形群岡 辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
對府之記 七月八日 辰辰辰辰
山主之遊園 辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

折角之辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

八月廿八日

秋元 辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
并上之辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

七辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

一筆致望去今夏海海
法后封西
清代哲漢胡鮮固以信使
沙波刺
い
下

一筆致望去今夏海海
法后封西
清代哲漢胡鮮固以信使
沙波刺
い
下

通換換は
折

八月廿九日
七

幅
吊
半

朝鮮國禮曹 叅議申 鐔 奉書

日本國對馬州大守拾遺平公閣下

匪意

貴殿下奄忽^{アハ}棄代^{クハ}遠承^{トク}

哀訃無任驚悼况

貴邦臣民之慟曷有其極竊想

貴新殿下丕承

今緒追慕深其在隣誼倍切憂慙^{ウレ}慈^ヒ差^ヒ象^ノ官^ノ謹^ク

吊禮附呈

奠儀轉

薦是冀不備

癸巳年四月日

禮曹叅議申 鐔

別幅

芙蓉香拾封

畫燭壹百柄

白方絲紬拾匹

焚香所用

沉香壹劬

大燭臺壹雙

香爐壹部

香奩壹部

畫籠大燭壹雙

際

癸巳年四月日

禮曹參議申 鐔

少奉旨入成宗廟神案方也一以也

代案之也

從朝鮮國禮曹參議申 禮書翰并別幅

書別幅上

大向以

正徳三年正月十七日

萬石月十日七日中三日對列并
肥前其其辭義又為郡大後由
田知所換毛い付為序業内
之規一過口以上書也認并分
少年物之奇新上物之信也
半付足正書認又口利書阿部
有之原書此下三浦貞古為法務系

口之次之田久古為之西後古之
口上之申蓮お後下如少換毛
口以上半之書也
一任海下口新上之
印之口新上之口
中下之口
半付之口
新上之口

高野山法皇御願書
田畑換毛法
上申
古
抄

高野山法皇御願書
田畑換毛法
上申
古
抄

増

一 田畑換毛法

田畑換毛法

田畑換毛法

一 例

一 換

一 補

一 信

大正六年四月廿七日

換元

一 田畑 貳千八百三拾八石餘

一 内田 百貳千五百九石餘

一 口畑 百七拾九石餘

一 前田 三百八拾

一 別荘 百七拾石

一 大正七年十月十二日 基幹書院

高部換元

一 上

十月七日

宗對馬

此田畑代今換元五百八十三石餘
八石餘
斗子刻
一 田畑 貳千八百三拾八石餘
一 内田 百貳千五百九石餘
一 口畑 百七拾九石餘
一 前田 三百八拾
一 別荘 百七拾石
大正七年十月十二日 基幹書院

是

公方場下

比太田之馬也

人多所行

虎沼子奴

津波三子也

思中三子也 類

三

系對馬也

三浦貞也

是

一伝場下

白根十奴

口也

其系也

河子三奴

日光院梅
或

日光院

青白梅

青白梅
花
城
城
城
城
城
城

日光院

青白梅
花
城
城
城
城
城
城

一

一

口

一

一

一

一

一

古 公方梅

一

月光地梅... 一

一

一

海中と浪竹江崎海邊を御所
送... 下付とり台...
三浦貞吉が持し...
流く文丸... 海防...
大... 北...

一切又丹宗門長... 一...
今... 改... 年...
任... 少... 文書... 送...

私... 在... 北...
家中... 文... 金...
有書... 者... 年...

一古切支丹... 義族...
行... 疑... 年...

一... 在... 中...
中... の... 年...
書... 者... 年...

州事

六

正徳三癸卯七月

宗封馬四京新

栢田留中書

柳河留中書

柳河留中書

栢田留中書

此は宗封馬
一書

大一通河村後望一柳之徳

英治勢言中半色メ上書後

田一白 清石中裁仕

栢田留中書後望一柳之徳

中次中書一書中裁仕

一書一書一書一書一書一書

一書一書一書一書一書一書

一書一書一書一書一書一書

清田河渡書

清田河渡書

清田河渡書

但し

古(西)後村(西)の(西)一(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

清田河渡書

南八月九日(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河(西)河

何れも之の如くはなしに
白く書するを思ふも其の如く
身たる事持し事し之を思ひ換へ
て之を判りて久し保清たる為
た之を半に送はしに成中七
ふり外に半計するに之れは
ふり又之れに白くし

城の如くはなしに
の如くはなしに

白く書するに成中七
行の如く書するに成中七
白く判りて久し保清たる為
上半に送はしに成中七
半計するに成中七

城の如くはなしに
白く判りて久し保清たる為
城の如くはなしに

左邊の口の上書と心居有る故
い対身大專持事一の重次
者原心大為一後並口動文
寺の中心心書と浪の波
沙城東接の形一軍心居居
は有る如日沙夜の心居居
口上中書と浪と心居居
半対心大居

口上心書

先心中上心居部紙前居居
心居接別信法村居居
沖城東接六月十日胡鮮居
寺の尚道一の心居居浦居居
一の心居居心居居心居居
半居居心居居心居居心居居
心居居心居居心居居心居居

對列致意... 朝鮮國上... 伊東... 中... 外... 作... 大坂... 海...

し... 録... 物... 所...

去... 津...

七... 地...

多... 月...

口口口

ノ世ノ人ノ心ヲ以テ

七五ノ心ヲ以テ

上ノ心ヲ以テ

指別傳法付ノ者後朝鮮國
ノ心ヲ以テ

ノ心ヲ以テ

上ノ心ヲ以テ

指別傳ノ人ハ朝鮮國ノ心ヲ以テ
指別傳ノ人ハ朝鮮國ノ心ヲ以テ
ノ心ヲ以テ

ノ心ヲ以テ

上ノ心ヲ以テ

指別傳ノ人ハ朝鮮國ノ心ヲ以テ
ノ心ヲ以テ

ノ心ヲ以テ

よきこと

部 漢字の 千載史

ちりり

よきこと 漢字の 千載史

部 漢字の 千載史

ちりり

よきこと 漢字の 千載史

部 漢字の 千載史

書 後 一 行

部 漢字の 千載史

部 漢字の 千載史

部 漢字の 千載史

日 月 古 之 世 代 一 行 也

部 漢字の 千載史

部 漢字の 千載史

礼曹手紙

宣統二年六月十四日

外中村お換手紙下下
日蓮

大慈心

外中村

口

同部改

上

外中村

口

外中村

外中村

外中村

外中村

外中村

對列法の如く在るは其の如
胡餅と上流流は其の如く
序並の如く、後より其の如
いの中にお段々数地へ
上流へ着て其の如く、外
別業の如く其の如く、
行はるる如く、其の如く、
今も其の如く、其の如く、
お附の如く送る、其の如く、

法要中の世流中より

寺月夜分 寺對馬

大石記城前より

別業油系、其の如く、
其の如く、

心動する

中より其の如く、其の如く、

口上之是

先以沙布中入るる証候事と度
何由捨別はたす村と名
沖城米積六月十日初野中
沙津之村長礼曹と度
お副証由と名を申す抄子事
と申渡是の旨を封別と名
と申候事と名胡幹申す証

候い前乃及難後沙津と名
別し沙口米積所由申す
お段矣敷地と名以上と名
沙文中申す外と名
い左と名及大坂河と名
津吉お附と名と名
沙光申すことと名
申入候と名大坂河と名
口上之是

二月廿八日 宗對馬

口動定事

申心動定事

別本浦米之計あり、宮内道也、
とらふ

指別深人、口上たふし也

口上事一見

一、秋方後朝辭由一、地、博志仕
い竹之邊境、治事、妻田中上
い地、い、い、治竹中、昔、我、女
十七人、去、拾、拾、出、治、治、村
い、局、ら、女、二、博、物、い、宗、治
治、城、米、治、い、い、高、手、口、月
廿七日、治、治、村、出、物、治、西、口、月
十三日、水、出、城、前、い、由、い、美、矣
治、治、城、米、積、い、六、十、一、方、治、不

用法

一 對列極長後人後方にお初辨
倚りて雙口附りて女口故也と
附し系中

一 中尾浦と對列極口後人中初
初辨中人後方にお初辨
と者ら初辨と口の中
元と口後方と後部と口後方

出た裁法

一 古くある初辨法の中
初辨極口後方にお初辨
十八丈と口後方にお初辨
葉子口後方と口後方にお初辨

一 古くある初辨極口後人中初
毎度及口後方と口後方にお初辨
也

少成書法拾別記

已
十月廿日

水牛中

日記

伊三書

幾何及古法

幾何及古法

幾何及古法

- 一 漢書卷之 三十三 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 三十四 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 三十五 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 三十六 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 三十七 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 三十八 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 三十九 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十一 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十二 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十三 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十四 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十五 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十六 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十七 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十八 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 四十九 辛卯也 伊三書
- 一 漢書卷之 五十 辛卯也 伊三書

一日家 口口 日廿六 三

一日家 口口 日廿七 次

一日家 口口 日廿八 廿九

一日家 口口 日廿九 三十

一日家 口口 日三十 初

一日家 口口 日三十一 二

一日家 口口 日一 三

一日家 口口 日二 四

一日家 口口 日三 五

積前物并中法道

一 津城米

日三拾積
細部原物記

一 葛

一 海

一 押

一 一

一 心形の物に

一 由原の入りたる物廿九

一 由原の物十九

一 日向の物十七

一 日向の物十六

一 日向の物十五

一 日向の物十四

一 日向の物十三

一 日向の物十二

一 日向の物十八

一 日向の物

一 日向の物十八

一 日向の物

一 日向の物

一 日向の物

一 日向の物

一 日向の物

一 日向の物

一 双木

一 文田

一 少木

一 大木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 双木

一 文田

一 少木

一 大木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 木

一 古漢書卷之三十一

一 招夷一物 經書卷之八十一

一 其

長八寸

一 記

長八寸

長八寸

記經書卷之三十一

記經書卷之三十一

記經書卷之三十一

一 口

一 月

一 橋

一 橋

一 橋

一 橋

一 橋

後七段

湯十三層

湯十三層

水湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

後七段

湯十三層

湯十三層

水湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

湯十三層

一 小 兼 治

一 也 一 治

一 梅 去 一 治

一 后 却 之

一 既 尾 端 也

一 梅 打 也 一 治

一 元 一 十 一 一 治

一 女 一 子 一 也 也 也 也 也

一 活 物 也 也 也 也 也

一 活 物 也 也 也

一 梅 中 八 也

一 梅 打 也 也 也

一 打 也 也 也 也 也

一 也 也 也 也 也

一 也 也 也 也 也

一 也 也 也 也 也

一 也 也 也 也 也

一 也 也 也 也 也

一 藤原のり

一 つるし

一 多摩川

一 竹取

一 藤原

内子

一 桐

一 藤原

一 藤原

一 出

一 十

一 陽子

一 橋

一 藤原

一 藤原

一 藤原

一 水漫式抄

一 道(寸)方板

一 板(寸)方板

一 訂(寸)方板

大(寸)方板 鉛筆 封(印)板(寸)方板
〜

一 酒(寸)方板

一 蓄(寸)方板

一 砂(寸)方板

一 漆(寸)方板

一 漆(寸)方板

大(寸)方板(寸)方板

一 漆(寸)方板

一 漆(寸)方板

大(寸)方板(寸)方板

一 漆(寸)方板

一 破き持

一 苦地持

一 七日回す

一 年南神現

一 多持

一 十日回す 別取は 人 時 七 日 分

一 十日

一 素新 一 切

一 多持

一 七日回す

一 橋き水

一 切き水

一 十日回す

一 由後三

一 湯三房

一 十日回す 七日後 商 女 分

一 十日回す

一 無草子

一 廿

大正十一年十一月廿一日

一 丁卯一打

大正十一年十一月廿一日

一 丁卯

一 丁卯

大正十一年十一月廿一日

大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日
大正十一年十一月廿一日

大正十一年十一月廿一日

十月廿一日

伊三博士

大正十一年十一月廿一日

心及打寄申候

大い一様と認

少由行申候

一北一申

指別大坂川に南法法村は伊勢
或指或揚帆江比由申大申人
介及之由 津城並法法村

い島より一北一法華寺より
格とる夜サ夕夜い北候上
とに我より形差らるる
口通とれりい何ら行申候
如申

百餘城より知り申候法華寺

心徳を申す年日風等 中村久正

少 少 青 水 候

尾

一 此等 此城米を女法にはり
可一 此等米はくまの米も
口米女もくまの米も
はくとくまの米も
くまの米も
此の米も

此の米も

くまの米も

一 此城米は 積り細持に得候
積り水は 積り遠東の米も
海中に 入りし米も
是れと 積りし米も
此の米も
見ゆ
此の米も

此の米も

正名白紙文の事
信長に准し高野の事
續く急ぎの事

一 遭難は赤糸はらさるる事
福永の事

一 城東の事
穀類の油の事

一 次郎の事

海中の事
如漢の事

一 江戸の事
余の事
中らるる事

大の事
同様の事

由一の度多分この下は又
あつたか成たつて坪を
隈の道沿うにおやこり
こつて一か二か三の
罪科を

寛文十一年一月一日

左の條目一紙のつちを

正徳と云ふ六月

馬場はた馬
馬場はた馬
今友はた馬
小泉はた馬
古部はた馬

積善寺の城守

一 送米八百九拾石

揚州河法使

伊三郎

地味正母親御付

上野現

外 送拾石

品 奉 坂口地味

拾六石八斗外 積石

地味正母親御付

送米

伊三郎

送米

地味正母親御付

送米

送米

送米

伊三郎

羊三拾五斗

馬場津 馬場津 馬場津

以清七百九拾二清年

也

羊六百三斗

馬場津

以清七百九拾二清年

也

以清七百九拾二清年

羊三拾五斗

馬場津

羊三拾五斗

馬場津

羊三拾五斗

馬場津

以清七百九拾二清年

以清七百九拾二清年

以清七百九拾二清年

清年

羊百拾四斗九升合

古郡支倉
四代家系

正徳三十一百拾九升合

四

善百拾九斗九升合 山城米

正徳三十一百拾九升合

四

令拾五斗九升合

前漢令大坂
恒

令拾五斗九升合

中興
城

令拾五斗九升合

車
恒

正徳三十一百拾九升合

正徳三十一百拾九升合

正徳三十一百拾九升合

城
恒

正徳三十一百拾九升合

清
●

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判 弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

也

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

也

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

弟^判言^判拾^判口^判斗^判冬^判

傳中

第^{十一}卷 (日)

第^{十二}卷

日

第^{十三}卷

第^{十四}卷

日

第^{十五}卷 (第^{十六}卷)

第^{十七}卷

第^{十八}卷

第^{十九}卷

第^{二十}卷

田代公家次公のりや也
城のこま
塔のあけ

残りのりや色あつた也

二つ二おはる
りや海

一 江口水主殿公家 楠江梅原三年迄

一 八拾五ノ月

一 七拾七ノ月

一 七拾六ノ月

一 海鏡 一 五拾五ノ月

一 四拾六ノ月

一 四拾七ノ月

一 三拾七ノ月

一 湯捨をさる

芋ノ目

柿ノ目

瓜ノ目

松ノ目

一 橋本

一 柳橋

一 梅一町 白根

一 寺一 世

一 福永 武拾六 石中

徳中

は清の十三侯

一 如足 皇父の権印也

大馬場洋馬場馬場徳吉古歌

文大馬場山泉市太中令九回馬
口代直系誠市王去年の乙亥
弟一内南とては戸口是法徳
口如細細抄太馬廟徳之部太馬
口清念ふは徳内福列徳法徳
口河之徳新徳道りて馬大馬徳
口馬徳河今徳徳徳徳徳上馬
口馬徳徳徳月太六力徳市由徳
口馬徳徳徳下也徳道りて福永水

新撰入部之改訂部名表
出部中付いゝり地之存否
債数一々及おきお違ふ
油運賃浪口海之由以辨

馬場坪
馬場坪
馬場坪

口徳二にちり月方す。

蓮之入りた也
蓮之入りた也
蓮之入りた也

蓮之入りた也

小泉町

小泉町

古郡

古郡

古郡

古郡

古郡

國ノ人民ノ友

金友ノ友ニ思フ

西川ノ友

馬場ノ友

馬場ノ友

江尾ノ友

讀公

辰之城ノ友ニ拾遺ニ斗讀

指別傳法

伊ノ地

古ノ城ノ友ニ古郡ノ友ニ斗讀

而古郡ノ友ニ古郡ノ友ニ斗讀

馬場ノ友ニ古郡ノ友ニ斗讀

己未五月廿六日同出ニ斗讀

之部ノ友ニ古郡ノ友ニ斗讀

あはれぼくしん

三陽源信

三陽信太郎

心徳正徳

夏井 徳太郎

今丸 正徳

連水 正徳

小島 正徳

小村 正徳

古郡 文正

1. 心徳正徳

松本 正徳

三陽源信

田島 正徳

口

室倉 正徳

正徳

増尾 正徳

口

為村也

一 田中

陸奥

澤

一 大正
清
打

如

書

年

日

日

日

是

一 越

年之属候三四段一色ノ口海水ニ
捕見ノ女一ノ上

己

六月廿日

後法夫尾村高之

由能海舟所下

指別大坂橋法要堂

伊三島也

是

一越前少城林口道中其半也後法要堂
口海一奇捕見ノ女也ニ封口解
有レ心ヲ奪之口海一良口海元
為見ノ女一ノ上

書列如浦

己

六月廿日

由能海舟所下

長列は、遠く津とて、
俄に、
日十、
中、
海、
山、
い、

山、
海、
日、
中、
海、
山、
い、

山、
海、
日、
中、
海、
山、
い、

子之拾部及海入之也
中

一 許公後次少法度之武具
持渡也其口年之塔地
所指一物外決之持渡
勿南胡解人之也
高貴之官仕也

一 孝名年一後口年之也

一 志之也
中

一 六月廿一日牛之浦
志之也
口城之女海流
以月切胡解表
海可有也
壇增也

新々毎り馬放牧之
月法

一 牛岩浦の口を破りて海を
胡船を人充てしむる女中
と高き姑障に上りて座を
と渡りて信部と河を去りて
裁はる

一 古くある胡船はより船中
力多糧白米拾て積由海
と下りてた後友人充て
菓子と梅干とを
裁はる

一 古くある船は月射り
人船を毎りて
海を

一 高月白胡船
ありて

是乃之少也及之其同也
海可也以西海浦之也
津城也其法以朝鮮表
海の中流に海流に在り
也其水も津城の中にも流
り其流の附に水も流る
る其流の多かりし者
津中一帯の地は外海に接
する所なり

津城の地味は別記あり

十五

津城

津城又古名
津城の地味

津城の地味は別記あり

之

一 清城米試子試百餘檢續三斗

古一前城米也之正清米續中
胡餅國上運流雜米一長三百
拾日續劍一沽口米四斗也
子五斗十八續三斗法中一為
法花也也續三斗

清城米檢拾別形取

心法二發十月也

甲三續

日二續

理在

對列法

法善米四段充中

古一也紀夫四段一也

漂人等附公書局

朝鮮國禮曹叅議李 大成 奉書

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

逖惟

啓居清裕瞻遠無已即接東萊府使所報本年六月

十九日漂船一隻來泊我蔚山境蓋開雲浦遣舌官問情則

貴國大坂城居民自出雲州還向本土遇狂風漂來十八人能得生全

所載米壹千玖百石帆樁摧折小船傷破故並修改資給

衣糧順付歸船仍此委告統帝

宗亮不備

癸巳年七月日

禮曹叅議李 大成

拾遺漂人等朝鮮國禮曹叅議李大成奉書
日本國對馬州太守拾遺平公閣下
逖惟
啓居清裕瞻遠無已即接東萊府使所報本年六月
十九日漂船一隻來泊我蔚山境蓋開雲浦遣舌官問情則
貴國大坂城居民自出雲州還向本土遇狂風漂來十八人能得生全
所載米壹千玖百石帆樁摧折小船傷破故並修改資給
衣糧順付歸船仍此委告統帝
宗亮不備
癸巳年七月日
禮曹叅議李 大成

大坂城漂人糧供
六月廿一日時以二
十六日朝至合五日
十八人所供

大坂城漂人糧供

米壹石叁斗

六月廿一日時以二

大口魚陸尾肆條

十六日朝至合五日

真油叁升

十八人所供

乾魚陸束

并醬玖升

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

白蛤盤壹斗叁錢價米伍升壹錢伍厘

際

癸巳六月二十一日

白米壹石叁斗

自廿六日夕以七月

大口奠陸尾肆條

初一日朝至糧饌

真油叁斗

乾魚陸東

耳醬玖升

鹽壹斗叁夕

藿貳斤拾伍兩玖分捌分

白蛤鹽壹斗叁夕價米伍升壹夕伍里

際

癸巳六月廿六日

米貳石陸斗

自七月初一日以十日朝

大口奠拾叁尾

至合十日十八人糧饌

真油陸升

乾菓拾貳束

耳醬壹斗捌升

藿伍斤拾伍兩捌分陸分

鹽貳斗陸夕

白蛤鹽貳斗陸夕價米壹斗叁夕

際

癸巳七月初一日

糧米壹石叁斗

自七十二日夕以十六日

大口菓陸尾肆條

朝至合五日十八人

真油叁升

所供

乾菓陸束

耳醬玖升

藿貳斤拾伍兩玖分捌分

鹽壹斗叁夕

白蛤鹽壹斗叁夕價米伍升壹夕伍里

際

癸巳七月日

米壹石叁斗

大口魚陸尾肆條

乾魚陸束

真油叁升

耳醬玖升

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

鹽壹斗陸夕

白蛤鹽壹斗叁夕價米伍升壹夕伍里

除

癸巳七月十六日

米壹石叁斗

大口魚陸尾肆條

乾魚陸束

自七月十六日夕以廿日
朝至合五日十八人前供
糧饌

自七月廿一日夕以廿
六日夕至合五日十八人

所供

真油叁升

并醬玖升

鹽壹斗叁升

藟貳斤拾伍兩玖錢捌分

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹升伍里

際

癸巳七月廿一日

米壹石叁斗

大口奠陸尾半

乾奠陸束

真油叁升

并醬玖升

鹽壹斗叁升

藟貳斤拾伍兩玖錢捌分

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹升伍里

際

自七月廿六日夕以八月
初一日朝至合五日
所供

癸巳七月 日

白米壹石叁斗

自八月初一日夕以初

大口魚陸尾半

六日朝至合五日十八所

真油叁升

供糧錢

耳醬玖升

白蛤鹽壹斗叁夕價米伍升壹夕伍里

乾魚陸束

鹽壹斗叁夕

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

際

癸巳八月 日

米壹石叁斗

大口魚陸尾半

乾魚陸束

自八月初六日夕以十日

朝至合五月十八人

所供

真油叁升

耳醬玖升

鹽壹斗叁夕

白蛤鹽壹斗叁夕價米伍升壹夕伍里

藿貳斤拾伍兩玖夕捌分

際

癸巳八月初六日

米壹石叁斗

大坂城漂人十八名

大口菓陸尾半

自八月土日夕以迄

乾菓陸束

朝至合五日糧饌

耳醬玖升

真油叁升

鹽壹斗叁夕

藿貳斤拾伍兩玖夕捌分

白蛤鹽壹斗叁夕價米伍升壹夕伍里

際

癸巳八月日

米壹石叁斗

自十六日夕以二十日

大口奠陸尾半

朝至合五日漂人

乾奠陸東

十八人所供

真油叁升

丹醬玖升

鹽壹斗叁升

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹斗伍里

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

際

癸巳八月十六日

米壹石叁斗

自八月廿一日夕以廿六日

大口奠陸尾半

朝至合五日所供糧

乾奠陸東

饌

真油叁升

耳醬玖升

鹽壹斗叁升

藿貳斤拾五兩玖錢捌分

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹分伍厘

際

癸巳八月廿日

米壹石叁斗

自八月廿六日夕以九

大口奠陸尾半

月初二日朝至台青

乾奠陸東

十六人糧錢

真油叁升

耳醬玖升

鹽壹斗叁升

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹分伍厘

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

際

癸巳八月廿六日

白米壹石叁斗

自九月初二日夕以初

大口魚陸尾半

七日朝至合五日十八

乾魚陸束

糧饌

真油叁升

丹醬玖升

鹽壹斗叁升

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹斗伍里

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

際

癸巳九月初二日

米壹石叁斗

自九月初七日以十三日

大口魚陸尾半

朝至合五日大坂城

乾魚陸束

漂人十八人所供糧饌

真油叁升

丹醬玖升

鹽壹斗叁升

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹升伍里

際

癸巳九月初七日

米壹石叁斗

漂人十八人

大口魚陸尾半

自九月十三日夕以老日

乾魚陸束

朝至五日所供

真油叁升

丹醬玖升

鹽壹斗叁升

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹升伍里

際

癸巳九月十二日

米壹石叁斗

自九月十七日夕以止日

大口魚陸尾半

朝至合五日糧饌

乾魚陸束

真油叁升

耳醬玖升

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹分伍厘

鹽壹斗叁升

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

際

癸巳九月十七日

米壹石叁斗

自九月廿二日夕以止

大口魚陸尾半

七日朝至合五日少

乾魚陸束

糧饌

真油叁升

斗醬玖升

鹽壹斗叁升

白蛤鹽壹斗叁升價米伍升壹斗伍里

藿貳斤拾伍兩玖錢捌分

際

癸巳九月廿二日

衣資木拾捌足

渡海糧米拾貳石

際

癸巳九月日

大口魚伍尾

紅柿七十箇

熟鷄一盤

餅一盤

清酒二瓶

際

癸巳九月日

訓導韓僉知

大帳七思

漢人曰予自半裁胡椒餅
下在言見之亦知為予之
言也ト為之有也此長切之
持し事

高岡書浦

牛尾浦

一大口矣

糖(串)

一大口也

胡椒油(串)

一粒矣

干菜(串)

一 丹膏

たまりの事

一 養

初あし事

一 白蛤鹽

塩蛤事

一 夜資木

夜資日本海事

一 渡海種木

渡海種木事

一 紅栴

熟栴事

一 鵝心鵝

黄鵝事

以上

白徳之類己の三月十五日

文脈沈脈

豊原白帯比良海

法后土下十三日海航に如初海に

敏来夏望平早初世浦口忌船

法唯名に浪々舟中舟中舟大

舟中舟中舟中舟中舟中舟中

舟中舟中舟中舟中舟中舟中

舟中舟中舟中舟中舟中舟中

ワるも若 遠東古次古為と云々
土屋お換ち炊上 持し事一日判入
大久保清丸為 西境古上書
お酒お如判の中と云 用書上
ワ布中々 治口差 治口持元
治馬と持し事 治口差 治口持元
三古あつた 西境古上書
ワ布一通 治口差 治口持元
中々中 治口差 治口持元

古記

同上

先以辰朝鮮治 治口差 治口持元
土月十日 治口差 治口持元
頃上 治口差 治口持元
先世浦 治口差 治口持元
中々 治口差 治口持元
同上

三月十二日

清名

古料の古半切減、古認、古切、古
古半色、古

正徳四年三月十二日

三ノ輪の下の古半切減、古認、古切、古
古半色、古
古料の古半切減、古認、古切、古
古半色、古

口上

新々々編下屋敷馬屋台入ノ事別
出火妻門通上屋敷ノ事本末枝失
本屋別業子ノ事此方火流
習有之ニ池田蔵記取方新
枝失此方より人数之ニ内屋
三通ノ事消中ノ事此派沙事
中ノ事古ノ事尾在取後事と
法。以上

三月十日

宗對馬

古ノ事判書

母ノ事内事取

古ノ事判書

此派判書ノ事内事取
保ノ事

古ノ事判書ノ事内事取

古ノ事判書ノ事内事取

只とては後集一申に云ふ
其乃此の如し

古語書内には云ふに
河内を以て法持し
西物といふは

河内を以て法持し
西物といふは

河内を以て

西物といふは

去年三月十日
胡解は其の
一人曰く
河内を以て
胡解は其の
一人曰く

此二句既叙家世志氣後
以古事副使事涉由一以道而
以行長記曹延年後遂言二氣
新事其公信一乃古稱也據氏
字上書叙其前物一半行其源
名上之

寫人書百

清名

日刺書母六也

一五編之類

一漢氏口上書前物對三也

七西抄換書

△各抄之書古信一古一古は即氏
月心

一五言詩幅一古二也

一漢氏口上書前物一半對

朝鮮漂流人呈書

一 我、及朝鮮國古、高道、日蔚
二、漢氏、口、夜、人、數十人
一、船、在、但、南、年、三、月、十、一、日、自、漢、
、下、方、下、如、俄、遭、大、風、檣、場、落、
、地、方、上、漕、船、也、下、後、旋、被、風、
、波、漂、流、日、下、官、長、列、之、內、
、境、流、上、海、島、上、住、之、如、浦、人、對、

、新、波、及、地、境、上、一、日、然、之、日、也、
、有、一、三、月、十、一、日、隨、上、及、年、是、人、等、
、口、以、官、自、長、流、上、下、如、先、人、等、
、後、後、身、帶、口、道、上、下、如、後、來、
、有、一、下、村、也、長、流、上、浦、人、等、
、由、日、海、日、日、下、亦、如、南、月、等、
、新、也、以、去、十、二、日、對、列、之、如、法、
、長、流、上、海、島、中、也、中、也、
、亦、有、記、之、也、

一 我、家、名、に、後、の、年、に、地、の、事、
記、音、秋、也、と、言、中、ム

漢民必并年村

年、之、十、一

セクヲニノイ

日、之、十、二

ハキフクスイ

日、之、十、三

キムハホイ

日、之、十、四

キムエトリ

日、之、十、五

キムカイファミ

日、之、十、六

ハキマクハイ

日、之、十、七

チユウサンソ

日、之、十、八

ヲムニユソ

日、之、十、九

カイ、ノ、チ、ヨク、ト、キ

日、之、十、十

ハキカフソ

眞、正、の、地

和、之、艘

七、七、身、を、下、
埃、九、下、

橋式市 括也

帆式池 括也

樽六丁 括也

樽式包

壽式口

号漫六法 括也

舞式

谷式

桐式

氷掉式

如了 漫式

細川 中妙

兼又介式

由從式

由作式 括也

大府式

少部式

鹿下式

- 一 長物拾三 細入拾五
- 一 長川十
- 一 かのの長
- 一 日書九
- 一 茶匙拾

いし

五月十六日

朝鮮漂流人の上書

一 我、後朝鮮は、高道、白長、
 漢民、らけ、人数、十人、一、
 組、高年、三月、十六日、
 蔚山、に、出、
 威遠、大、凡、橋、橋、と、
 漢、高、に、及、
 古、列、に、内、

浦人出合ふ海夕抱てて口然と
 口池光有る三月廿二日陸上及天
 空に對し日月星も満ちて光
 彩ありて海に下りて下り
 換上亦有し對ちて海に浦
 迄付去て七日迄出帆日
 對列船はともて信延の中
 五月中に池光に對し
 ちりぬ

一 我、少くも、夜、口、岸、に、控、え、あ、り、
 銀、多、敷、也、と、合、中、の

源氏元年

年二十六 キムセニ
 月二十日 カケトリ
 月二十八 エリンノミ
 月二十日 キムサイ
 月二十日 ヌザンダキ

日二十ニ

キムソクイタニ

日二十ハ

カグソクノミ

日二十シ

イハコ

日二十メ

ボゾクイ

日二十

イボロソイ

船具并荷物

船

船具并荷物

帆

帆

楫

楫

櫓

櫓

歩

歩

送

送

の

の

一 玄洞と帖

一 巻物十九 源入流と也

一 綴り十巻 古の

一 二つと

一 かの紙次と

一 葉巻十巻

一 浅口ノ武具と

一 心と

と云ふ月十六。

朝鮮儒流人口上書

一 我々の後朝鮮は高麗道に因

りて蔚山に漢民の住居ありて其人数八人

一 解京に但高麗三年三月十日漢

の女をとりて俄曹大反悔と云

地方より漕ぎあひて後船成り何
れは船儀同く白く列し内川原
博志江下如浦人出しく此今地
より山口迄之りて後迄有る
三月廿三日港に突き入り此後
只一里の長流に上りて是れ船成
りし時道より下りて折角有る
おとす法は浦に在りて月毎
日ちとち取高月七日取中物
取有る也

去十二月封列し幕末は長流
意の中一也中と後迄に在り
取有る也

一 我々幕末の故の事々此の事々
記言新也と念中

福氏名義年

年二十八

ハキセノナリ

日三十八

ハキブキイ

日四十三

キムシヤキ

日三十八

キムフウブン

日二十六

キムセキ

日二十六

サイラクナミ

日二十六

キムモロトキ

日二十

リヨクニシ

智の年表也

船隻

長十八年、九月、

橋

換也

樺

換也

橋六丁

換也

帆

換也

少

評

突

一 どのまき 括也

一 常の弁きた丁

一 胡辯浅三拾口文

一 不二説也

一 是の丸十七 給入次品也

一 櫻川八

一 かの〇はなぬ

一 口書目下

一 日華起也

一 下口也

一 物に上り

百五十四日

よき矢のぬきまき

長門の内流下深き、胡辯人

口上書は丹書物に付

大口

長門内川原上深谷一胡餅人
只書如丹為也一書付

成美系之書

長門内川原上深谷一胡餅人
送原公討長江曹一書付

并別幅

口

長門内川原上深谷一胡餅人
送原公討長江曹一書付

并別幅

長門内川原上深谷一胡餅人

長門内川原上深谷一胡餅人
傳名一胡餅人
例一通口深上水副朝餅團
送原公討長江曹一書付

おとし編一題の半より終へて
おぼしむる対深民は半無其
為物と半対を思ひし使若
口と半おぼしむる日と使おぼしむる
と白と半おぼしむる浦身と半おぼしむる
ナク半深清たる事は使と使と
口用書終えし使馬を次と半おぼしむる
又高と半外事と半対と半人
おとしたは半おぼしむるおぼしむる
おとしたは半おぼしむるおぼしむる

おとし

おとし

朝鮮は昔の南道に内蔵の
八人一人は但去年三月十一日
おとしと知らぬ及同十五日
おとしと知らぬ及同十五日
おとしと知らぬ及同十五日
おとしと知らぬ及同十五日
おとしと知らぬ及同十五日
おとしと知らぬ及同十五日

おのり福一瀬の半多る共、
お候はる対深民に半多其
為物、半多お思ひの申是者
口半多お原、今日と取お掛を
と白ちお申之浦身と申お申人
ナ、久保清た是、口候と申
口申書、林之也馬と取、口申
お申、口外申、口申、口申人
お申、お申、お申、お申、お申

古記

口申

朝鮮は、其の南道、口申、口申、口申
八、口申、口申、口申、口申、口申
口申、口申、口申、口申、口申、口申
口申、口申、口申、口申、口申、口申
口申、口申、口申、口申、口申、口申
口申、口申、口申、口申、口申、口申

口波の如く右の副使若くは國に
送るに如く使費し手後又は為
高小仕の儀し為り抑也保民
に之等し其具物、書付
お活た上しといふ

口波の如く

三浦貞吉

二月二日

古の用書

秋之使馬と所、一也
七段お換と所、一也

。この所と名をいふは抑ふといふ

使馬と所、一也

古の通稱は相澤氏といふ書文必

蔵前所、一也

お換と所、一也

古の通稱は手別所といふ一也

一 我々もこの後四年の間に
録言新造と云ふ事

深夏必并年

年三十一

キムラセニイ

日二十

キムラナニ

日二十七

ハキニシヤキ

日二十三

ナニウカイトキ

日二十六

キムエセキ

日二十三

キムテルメキ

日二十

サイラクニヤキ

日二十

ニユウフブトキ

眞并年物

年三十一

七十八年
積九月

物三十一

積九月

一 橋をち 換也

一 梅をぬ 日也

一 椿七枝 内二丁換也

一 木皮をさ

一 うゝ湯を産房

一 少敷をさ

一 公をさ

一 前より介きて

一 のしをさ 換

一 汗をさ

一 油汁をさ

一 足元十八 活入浴をさ

一 股間十二 活入

一 くの具を八

一 同書八

一 日茶を七

一 少力をさ

一 少

己未年十一月

長門の内史流に深き一級辯人
是半解其高物に半付

昔の口は活と深き一級辯人
道徳の竹は流骨と深き一級辯人
并別欄

己未年十一月

去年の... 寺に...

寺に...

寺に...

寺に...

寺に...

寺に...

寺に...

つとて次大に後を三海といふ事なるが
清をいふ事判らるる事なり
これ約ん述す

一

私所へ封馬必并紀前公・内卷
隸義又南郡寺江順

沖朱平地といふ封言は言中
いふ

三月三日

家封馬

大序に上書は方よりおとす
いふ事本とす
大序に上書は方よりおとす

同年三月七日

孝子代極親親由々之信半通
洞下去子信由々附送之
少遊去之信由々洞中し之及子女
之信由々送之信打列次之
口書内下在去之送之信半打
大之信清在書之信原筆之及書
信之書之信打列次之信清在書

少波中送之信由々洞中し之及子
之信由々送之信打列次之
中送之信由々送之信打列次

是之

去年中々之信由々洞中し之及子
之信由々送之信打列次之
新信打列次之信由々洞中し之
之信由々送之信打列次之

三上

三月

清石

古料のちり半も切と色は長ぬり
半色に池

正徳四年二月十日

胡蝶園主玄丸より高氣へ

重々梅子一鉢付に書
梅はさきより一鉢は
お思上ぬお様を
右次書といふ

三上

胡蝶園主玄丸より高氣へ
清石へ

白雲山のついで

三月 宗 封馬

古口の上書り制人大人 徳徳と為
後下給ふおる公と主と商中
為治のあはれははたはた
入上り四九とては絶念と
西土並に制の他の中ははたはた

去方、封別の上書り 徳中城の其
以後治中へ先重の由及ははたはた
此氣の交り心元何れははたはた
因に他中達上りて、主と一年比
くお尋上りては是れ中へはたはた
甲申年迄、はたはたはたはた
少治の毎度別辨能留成
はたはたはたはたはたはたはた
清枝煙の末中へはたはたはた

の高田より越え、越後へ渡るといふ
うき話なりけり。然るに天保二年に
其の年より、この日長を度よりあはせ
由王年時、天保二年中に、たゞ是處
より、たゞ天保二年に、たゞ越後へ一
の十一、由、越、天保二年、天保
く、渡、日、長、た、天保二年、
た、ま、う、越、日、長、天保二年、
い、た、天保二年、天保二年、

清江寺の中いすお換、寺、夜、と、
子、蛇、さ、た、城、の、兵、今、
や、し、道、中、計、り、清、城、の、
ゆ、ら、は、た、う、十、(天保二年) 半、
見、し、お、遠、中、天保二年、
清、城、の、中、を、い、た、は、
清、江、寺、
と、義、の、日、長、を、例、の、
お、年、の、中、た、る、は、先、天保二年

いふくはるゝもあまゝのしに女海に
中由もあまゝのし約持し系ゝ口と之
たに記

とん

胡辨正之外燕の遊史の西三年
二月封馬を方より弟に保長
名後より燕の遊一月日と女
中より女に封をたに記

公義坊より攝中より女に封を
名に法を半より下と例を
のたに記

り着

三月

三月南貝たあ

夫人漢書あり

正徳四年六月廿三日

南二月晦日大七日時淡田海中を
口動定まら行大久保大隅を旅り
以口是れ海中を旅り口尾らるる
三浦貞吉と名を浦口と云
口業又口録書と云口後口と云
以口我大尾高直と名を口と云
口女と云口尾見と云口田原と云
持し書と云口録と云口と云

口と云

先口浦造と云口業又口録書
口女口後口高直と云口と云
建事と云場外と云口と云
建の事と云後と云口と云
よと云と云口と云口と云
口と云と云口と云口と云

具中城下如出入事(うかつの記)
くまよふ事(外)新三の連(あま
の)丹(ら)女(流)つ(中)ら(る)と(城)
心(と)

系封馬(の)

定

(ちよとてかへり)

正徳四年甲午六月十三日

杉浦肥前守(次)の(内)を(列)地(海)良
く(者)武(人)四(月)朔(日)朝(鮮)由(ん)致
浮(名)の(村)の(素)因(こ)長(び)り(七)世(の)
中(の)女(の)作(し)と(り)ら(ん)と(中)お(河)上(屋)
お(換)ち(次)の(村)書(新)え(但)馬(を)次(に)
く(白)を(流)と(浦)貞(た)ち(新)持(持)系
お(換)ち(次)の(村)の(女)次(高)尾(又)三(某)

伊馬 久遠より 久川 治古の 志に
上書 ありて 汝の 志を 府に 志
の事 あり 古き 志を 汝の 志に
口 あり 汝の 志を 汝の 志に
持し 事あり 汝の 志を 汝の 志に

口上書

松浦 紀元 あり 汝の 志を 汝の 志に
の 志を 汝の 志を 汝の 志に

朝日 力高 貴向 列湯 浦と 汝
いそ ぐ 蘇 風 日 二 日 朝 鮮 國 有 湯
中 あり 汝の 志を 汝の 志に
善 則 汝の 志を 汝の 志に
其 志を 汝の 志を 汝の 志に
汝の 志を 汝の 志を 汝の 志に
汝の 志を 汝の 志を 汝の 志に
汝の 志を 汝の 志を 汝の 志に
汝の 志を 汝の 志を 汝の 志に

久川 治古 宗 村 集

七尾相撲多夜(一)

日刺青

林元但馬多夜(一)

口刺青(一)

大島海前多夜

口刺青(一)

口刺青(一)

口刺青(一)

口刺青(一)

口刺青(一)

口刺青(一)

口刺青(一)

口刺青(一)

正徳九年七月五日

南六月二日 泊建長港 船人数
三十七人 船一艘 南緯 海に下
瀬 是は 竹長港 へ 傳へ 由 別
々 大 道 公 法 中 へ 由 上 へ 中 へ 由 中
へ 大 規 して 有

之 義 上 志 書 内 へ 旨 上 日 相 書 何 故
方 後 者 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故

正徳九年七月五日
たし 由 旨 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故
三 海 舟 大 為 持 米 舟 後 者 何 故
何 故 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故
故 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故 何 故
舟 上 舟 上 舟 上 舟 上 舟 上 舟 上 舟 上
舟 上 舟 上 舟 上 舟 上 舟 上 舟 上 舟 上
渡

一筆被破上云福建之四縣
之記人數二十七人
二月封列南宮
深名法公
いん
口
度
此
後

六月十六日

結元他馬
中
行
以世大

福建臺灣船主謝叶運為懇

福建臺灣船主謝叶運為懇 恩撥夫繹船進發長崎
事本船長捌丈濶壹丈捌尺自五月十六日由臺灣開駕
裝載冰糖白糖烏糖玖百件山馬皮肆百餘張并無他貨併
違禁等物船內兵器全無容商及舵工水手共計叁拾玖
因大霧籠罩山嶼莫辨於五月二十八日候投
貴島洋中風水不順難以前往長崎合情具叩

頭目老多轉啓

王上勅賜小船繹進長崎千秋感戴

六月

日福建臺灣船主謝叶運

別後口口口口口口口口口口

口口口口

西月廿八日唐船一艘封列洋中

深又七條公浦、或打又公均先浦
津、今没去、以封漕船、不先公、
今月二日封列南定、中、
浦、以海、公法、封早、東、家、
之、者、公、也、以、單、漢、地、子、打、身、
以、地、公、浦、建、之、以、最、漢、之、世、
人、數、之、十、七、人、公、以、月、十、六、日、最、漢、
公、帆、公、海、上、復、海、之、如、之、秋、風、
以、深、流、洋、中、之、數、日、深、水、拂、也、

以上長後、海路、以、事、
新、後、有、浦、近、之、捕、獲、之、入、
以、中、公、左、封、府、浦、之、漕、也、
昔、以、多、財、並、如、史、規、製、人、之、人、
別、其、為、宗、保、之、其、海、運、漕、集、
打、附、度、之、後、西、公、事、以、之、者、
之、公、以、公、海、口、事、以、其、上、公、運、
以、封、去、十、日、封、府、浦、海、上、帆、
以、公、又、送、以、公、海、大、公、事、

大勢不速、水邊城に於て、賢人衆
集りて、其の事、事座して、其の物
法、其の事、事座して、其の物

六月六日

清夜

口刺書

阿比豊後守

清運州

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

カキ(口)目(目)出(出)次(次)の(の)多(多)く(く)口(口)上(上)半(半)宮(宮)
抄(抄)自(自)由(由)の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)永(永)く(く)年(年)
に(に)あ(あ)ら(ら)ず(ず)に(に)口(口)上(上)半(半)の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)
事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)又(又)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)

口(口)上(上)半(半)の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)

口(口)上(上)半(半)の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)

大(大)名(名)海(海)前(前)の(の)事(事)

抄(抄)自(自)由(由)の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)
の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)

抄(抄)自(自)由(由)の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)

抄(抄)自(自)由(由)の(の)事(事)に(に)関(関)する(する)事(事)は(は)口(口)上(上)半(半)

もよりお摸き改りて南夏と
の事如き洪寶と云ふ一通り
に上書持来りて改訂本周九に
お後書に改訂しつて改訂本情
源をわたりて改訂しつて改訂
に上書お後書に改訂しつて改訂
お改訂本に改訂しつて改訂しつて
改訂しつて改訂しつて改訂しつて
改訂しつて改訂しつて改訂しつて
改訂しつて改訂しつて改訂しつて

口上書

南夏討討下 深き一 南夏討
六月十日討討浦討討 帆逆
如く好書 南夏討討 大如書 南夏討
地 南夏討討 南夏討討 南夏討
南夏討 日十六日 南夏討討 南夏討
南夏討 南夏討 南夏討 南夏討
南夏討 南夏討 南夏討 南夏討
南夏討 南夏討 南夏討 南夏討

田助浦に上りて警備の事は浦池を以て
けあせありとて深のりちりあり
ふまはし業内いかに長き列は業
し海を走らむし業今度及
洋るいふいふ道いほいふ家
有し海ありし傳へ海を走らむ
其方の道一月廿九日を海を以
對馬を以てし女といふは
及いふ別及浦に上りて海を以
七月二十七日に度いふちりあり
清き女多し人なりたは後
其に同なるいふ女は
うしよる對馬を以てし中
城といふ

清き

九月十六日

三浦貞十郎

書翰并徳人の上中下及又細群
王若く尚道の内謝とて漢民二人
一紙と細とて十月十日と刻の内
他の中流と文漢とて対如漢文と
おほ細群の中上と道と他の上と
以曹と尚道とりて又尚と書と
漢民の上書と年付り具事物
年付大書と尚と書と中と書と
おほ細群の上流と書と
おほ細群の上流と書と

おほ細群の上流と書と
しりしと尚と書と三浦自其と書と
上流と書と河の上と書と井上
河の上と書と中と書と尚と書と
上と書と中と書とお換と書と
尚と書とお換と書とお換と書と
尚と書とお換と書とお換と書と
尚と書とお換と書とお換と書と
尚と書とお換と書とお換と書と

白利書の次は、
下巻の事、
退金支り、
相余文、
之の事、
いづるに、
大に、
池し

一筆致書、
相浦地、
之者、
新設、
唐流、
江曹、
其、
封府、
其、

白雲 治中ノ先道ハ境ノ内也
ハ故トシテ河口中ノ約ハ傳者ナリ
先道ハ別長江曹トテ改メ
半海トテ深人トシ半海也
書付ナリト思ハル先上ニ
志惶茂云

七月

秋元 但馬トテ

井上トテ内トテ
巧部トテ後トテ
久世トテ大トテ

人トテ中

七段 桐葉トテ

久世トテ方トテ力トテ写トテ是トテ自

口トテ意

先以中上杉浦地之古也
三洲渡良浦之若武人只月言
胡鞞固度流之中上之海兵
法以月長以曹之長改事編
お副師出上之古之聖公松家平上
上杉後七月廿日對列法名如
い故之無任休下如別事言也
道与上之流之聖公道 上之古之流
い竹入之及長流之古之流之古之流
お附先道之流之流曹之長流
半高美長胡鞞法流也
目録深人上之古之流也
為心師乙之流上之流也

九月廿五日

宗對馬守

三浦貞光也

日記書

井上了因之流也

一書多の如し

一古別深人只上中并其具多物

多し中付写し通

一朝鮮はより深人よりおぼし

言物し中付写し冊

一口上書し通

伊文し上中し并其の北書切

上色の英地おのち中色

七版お換す以し一画

△久世に書しりりは抄し目

一書多の如し

一古別深人只上中并其具多物

多し中付写し通

一朝鮮はより深人よりおぼし

言物し中付写し冊

一口上中一画 古口の

日刊書冊の心也
其後一古一南
其後

半角成り
押紙の思格
（半角）

寺別海良浦
漢氏
古別本
作
胡群
心
長
礼
曹
善
友
書
海

成り
下
三
角
成
り
古
別
本
作

上巻
礼
長
七
半
角

古別漢人の胡群
心古
其
後
道
心
也

物目海
一
古
丹
胡
群
国
漢
人
古
其
後
心
目
海
心

但
其
後
心
目
海
心
古
丹
胡
群
国
漢
人
古

上巻
其
後
心
目
海
心

胡群
國
漢
人
古
其
後
心
目
海
心
古
丹
胡
群
国
漢
人
古
其
後
心
目
海
心

但
料
心
目
海
心
古
丹
胡
群
国
漢
人
古

古也之也古半成之古半之(上半大也)

一 古列深人(口)之書其為物對寫

一 從胡雜之寫(口)月派寫

古也之也古半成之古半之(上半大也)

古也之也古半成之古半之(上半大也)

古列深人(口)之書其為物對寫

從胡雜之寫(口)月派寫

一 外(半)付(口)列(書)之(書)付(口)

口(半)付(口)

古也之也古半成之古半之(上半大也)

一 古列深人(口)之書其為物對寫

從胡雜之寫(口)月派寫

古也之也古半成之古半之(上半大也)

一 從胡雜之寫(口)月派寫

三列標入口と書あり也也也

口と書

一我、後、去、列、渡、區、浦、一、者、二、
の、我、の、口、收、蛇、一、艘、の、二、紀、系、系、
黃、洋、也、淡、色、浦、一、為、商、矣、
口、月、朔、日、辰、一、別、後、良、浦、也、
紅、仕、也、里、淡、伸、の、東、良、淡、也、
一、上、上、反、白、淡、淡、の、辰、の、う、と、と

又、夫、い、望、二、百、洋、中、一、深、日、音、辰、
別、山、と、二、又、抄、付、行、出、去、り、故、也、
漕、家、と、如、浦、人、一、と、女、出、河、角、ら、
と、と、也、と、好、老、云、然、通、中、心、の、
と、由、共、口、中、之、心、道、一、と、人、
の、身、が、我、一、深、遠、行、一、等、中、
ま、い、如、朝、野、中、の、身、清、と、
中、可、し、也、と、也、辰、一、と、辰、辰、
此、船、より、福、永、水、由、矣、華、宮、

毎りて下りてい同いりり漕船を
り先徳同八百の白大浦の巻糸
日十日白對列地りり海人海人
り女海流り流中りり流流りり
日十日白牛足浦りりりりりり
りり後對列地りり海人海人りり
りり海人りりりりりりりりり
七月十日十日りりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりり

一 牛足浦海角りり對列地りり
りりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり

一 右外海りりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり

一 右邊りりりりりりりりりりり

目福と心新の旨を伝文用は

一 七月十六日初舞はし内半島浦

出羽は同日奉別封列佐次家

出雲守上总領はしり七十七日

と改め信守はしり西白浦に

と改め同日十九日信守はしり内白浦

と改め同日府内浦に改め

はしり同日封列佐次家

初夕口緒はしり其はしり口緒は

しり同日信守はしり改め

信守はしり

一 我、後、夜、其、并、し、信、守、は、し、り

はしり同日信守はしり改め

信守はしり

一 初舞はしり高島はしり信守はしり

同日信守はしり改め

一 我一人の心、一日の身を、世に於て
浮くも生かすも、老に於て
世を切ると、後口身を、世に回す
と、白雲浦上、石段の、心には
世を知ると、心には、世の外、
中々、後口身を、世に回す

千七百六月

左羽田の浦

二年拾三

七月廿八日

三十一

清七

地元の地味、
静かに居る

世の事、先づいふ

静かに居る

七年六月廿八日

横領、居る、静かに居る

由活帆之池

橋之

水之

増之

水之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

池之

一 播はらりりき

一 焚たきききき

一 晒ひききき

一 演えんきき文

一 度たききき

一 徳とくきき

一 市いち活かつききき

日活
日活
日活

一 帳ちやう子こ

一 市いち活かつちちききき

朝鮮博覧會中一并
物もの一い完ん

一 帳ちやう子こ

一 焚たきききき

一 晒ひききき

一 演えんきき文

一 度たききき

一 徳とくきき

一 四ツ女

一 世抄三女

一 沖三女

一 歩抄子三女

一 身家抄六斤

一 傳抄七女自

一 元抄三女

一 酒抄一抄

一 も女の女束

一 將書三女

一 明三女

一 徳村女

一 書三女

一 書抄三女

大正初年表封列伝四巻

辰下三

一 抄三女

古料の札を呈成りて

漢ノと書割の半紙

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

去列漂人之後初船法之也遂
池多也目福之字并初船法
後人之也初船法之也目福之字
左記

一 岐島漂人糧饌

料米貳斗

白蛤鹽陸合柒夕

鹽陸合柒夕

藿五兩叁錢叁分

大口魚壹尾

乾魚柒尾

耳醬壹升

真油叁合叁夕

際

五日糧饌

漂人二名自四月十六
朝以二十日夕時至合

甲午四月十六日

粮米肆斗

大口奠貳尾

乾奠拾肆尾

奠油陸合陸夕

耳醬貳升

白蛤鹽壹升叁合肆夕

藿拾兩陸夕陸分

鹽壹升叁合肆夕

際

甲午四月二十一日

右白以

甲午五月初一日

大口以

甲午五月十日

漂人二名自四月二十一日朝
以五月初一日夕至合十日
粮饌

古月以

甲午六月廿六

古月以

甲午六月廿六

古月以

甲午六月廿六

古月以

甲午六月廿六

古月以

甲午六月廿六

夜資本貳匹

渡海粮米壹石伍斗

際

甲午七月日

餅壹盤

大口奠壹尾

真氏拾箇

清酒壹瓶

計

甲午七月日

訓道

右白

甲午七月日

古矣彼の帳也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一筆致彼等公胡籍此等尚
道一曰蕭公一侯氏二人如家
去年十月分。為侯。子。如。家。
之。新。鳳。同。月。十。百。也。列。一。四。
他。中。博。之。江。深。之。之。以。其。年。
氏。証。大。柳。西。一。一。也。之。路。而。有。り
而。之。之。也。道。也。所。地。之。之。金。也。
新。家。也。也。之。也。後。之。也。列。
也。副。侯。者。所。也。也。道。也。也。也。
長。江。曹。也。也。也。也。也。也。也。
信。一。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。

七月十九日

林元德馬子
井上之也
以部也

久世天社之状

久世天社

古風お換て候

△ 昔より此の地は民の只書

手紙其の物も射水邊の松

若くは海に舟をたてし

は妙自

口上書

朝鮮國共の商道一内蔚

と名取人一般に組去年十月

八日渡りておん如く旅後同十

日並列照中海上に波濤急い

り候とよりとも傍りて行下

り候と道り色は金波浦地

に名取の家の中者たの海

にありて副使先づ浦由り

に候り長江曾しき後

法以法一力居州地思編民之出
并其其物一平付也
多上の上

家對馬傳書

九一七
三河自志

母一七

法又高下
編民只一書一平年付其

高物一平付三百

七尾抄換

高物一平付三百

高物一平付三百

高物一平付三百

高物一平付三百

已見書中

口とらるに押あふりてかえりて半寸さゝり

昔列之口紀中浦に深き一初
群人送返ふ対長江曹と後
返指并別幅

上とて又たあふりて半寸さゝり

昔列之口紀中浦に深き一初群人送返
返指并別幅

古色に換ふ様と云ふは

上とて又たあふりて半寸さゝり

昔列之口紀中浦に深き一初
群人送返ふ対長江曹と後
返指并別幅

古色

昔列之口紀中浦に深き一初群人
送返ふ対長江曹と後

朝鮮漂流人足書

一 我、後朝鮮は昔、尚道、
蔚山、漢民、
十日、八、二人、
比、
吹、
肥、
高、

陸、
と、
と、
中、
館、

一 我、
館、

徳氏必平也

年六十六

キムナシ

日三十八

トホクニヤギ

眞并考也

一 船を艘

キサ六尋
塔七尺

一 帆を洗

一 橋を中

一 梅を也

一 樽を丁 換也

一 巾着を中

一 巾着を中

一 首尾を中

一 河川を中

一 大船を中

一 美を中

一 明和九年

一 洋書本

一 河内守り本

一 瓢本

一 古本

一 北川本

一 中巻本

一 心本

辛酉月書

大料成心書成心書

正徳四年十月

高年四五田代家門改一日建文
例一〇通お徳切支丹も改換日
尚中も信柳は尚後も改換日
も高年村しりも改換日

自其未始也... 漢文古記

一切支丹家... 漢文古記

おぼやう... 漢文古記

可... 漢文古記

下... 漢文古記

右... 漢文古記

一古切支丹... 漢文古記

汗... 漢文古記

一頃中... 漢文古記

中... 漢文古記

成者... 漢文古記

いし

徳治元年九月六日

宗對馬

判

徳治元年九月六日

横田海軍中尉

柳沢海軍中尉

柳沢海軍中尉

横田海軍中尉

女上野中尉
口許一也

右通海軍中尉
其年己ノ上半年海軍中尉ノ少少事載
仕

正徳四年十月十日

五年十月長門忠清部 高島

朝鮮人 道邊 早良年 正月 封列

泉浦 西は 巨浦 新浦 上 標 高

物 総人 以 時 之 道 之 所 以 長 澤

し 多 故 之 延 福 之 邦 其 深 民 口 上 書

新 兵 新 兵 也 其 封 号 去 比 少 少 也

其 美 誠 心 封 侯 也 上 書 也 思 不 日

乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲
 抄撰之次以爲之次依之而之次也
 大補年十月十九日抄年民部大補以爲
 乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲
 元古書下古書の...
 抄撰之次以爲之次依之而之次也
 古記...

乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲

乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲
 長列史書...
 漢民古書...
 抄撰之次以爲之次依之而之次也
 乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲
 乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲
 乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲
 乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲
 乙酉年十月十九日抄年民部大補以爲

依之為少披也深民口上書如丹
前之書付お帳上上上上

十月廿三日

三浦貞忠

此為傳本

日用書

一 世大智次上一通

一 法蓮此二通

一 法蓮此二通

一 深民口上書在藏其前物書付也

此一通是也

一 七色打換と次上上通

口利書此口利書付は抄自也

一 口利此二通

一 口利此二通

一 深民口上書在藏其前物書付

口通 あり

徳氏名義年

年二二

日四拾日

日三十三

日二十日

日二十日

徳氏名義物

銀三艘 長サ八尺
横九尺

橋三本

櫓一組

櫓六丁

木炭貳

物貳拾

首湯八丁

庄六丁

一 水掉口也

一 道六也

一 可くもり也

一 总物十五

一 縁川十五

一 二下り也

一 枝物大小十也

一 茶器七也

一 皮三也

一 小箱三

一 桐大小三

一 卷三也

一 切歯十五

一 壺大小五

一 釜大小三

一 巾袴三

一 妻了之漬

一 湯漫一也

一 子介一按

一 整一按

一 報一按

一 兒一按

一 可一按

一 上

朝鮮漢民口上書

朝鮮漢民口上書

一 我、汝、朝鮮、正、黃、高、道、一、府

一 正、漢、民、口、上、書、一、人、一、組

一 正、月、廿、一、日、為、漢、口、上、書、一、組

一 正、月、廿、一、日、為、漢、口、上、書、一、組

一 正、月、廿、一、日、為、漢、口、上、書、一、組

一 正、月、廿、一、日、為、漢、口、上、書、一、組

一 正、月、廿、一、日、為、漢、口、上、書、一、組

旅方より

一 我、家とて事、親を、新ぬと念
♪

深民必并年

年三十一

日四十六

日四十一

サイラムサニイ
コニメグハキ
サくヨウニヒ

日三十二

ハキニヤギ

日二十

イニイツヒギ

日二十

キムアウクサニイ

真并病也

一 舟

七サ六身
塔七人守

一 帆

一 橋

一 樽 五挺

一 湯 五房

一 湯 五法

一 湯 五六

一 湯 五

一 庖 丁三反

一 中 五

一 河 三三

一 湯 五

一 湯 五

一 湯 五

一 湯 五

一 湯 五

一 湯 五

一 湯 五

年

五

朝鮮漢民口上書

一 我、汝朝鮮也、是、高道、の、を、
列、漢民、の、を、八、人、一、
正、日、女、百、力、漢、の、を、
大、汝、汝、橋、梅、を、換、日、女、二、百、
封、列、の、内、西、は、汝、浦、に、漢、民、は、
汝、交、浦、人、出、し、云、く、汝、汝、抱、梅、
水、汝、の、外、に、汝、汝、の、汝、汝、汝、

事、也、

一 我、汝、の、事、を、汝、汝、汝、の、事、を、

漢民口上書

年三十八

日五十六

日五十六

日五十六

ワラクサニ

キムニエメキ

リムセキ

キムゾグニ

日二十六

キムキニキ

日二十三

サイクナミ

日二十一

キムセニ

日二十一

キムテブギ

舟

船一艘

長八尋
横三尺

橋式

換丸

楫一対

換丸

帆二張

楫七挺

水掉七枚

小湯口

帆一対

湯一房

莫の

く

一 日孝慈九中

一 小童試

一 柳重三

一 多介以提

一 鴻一

一 何三三

一 心一

年
二月廿六日

朝鮮漢民口書

一 我、汝朝鮮、出、高、道、一、日、蔚、山、
 漢、民、言、汝、十、口、人、一、如、家、也、言、
 汝、一、日、為、候、汝、上、下、如、俄、大、風、之、
 地、方、也、汝、情、言、也、一、梅、換、一、
 汝、漢、流、回、汝、言、對、汝、一、日、新、浦、
 京、抄、公、心、浦、人、也、令、汝、汝、抄、抱、
 水、汝、其、外、也、汝、乞、汝、仲、對、
 汝、方、

なま

一我、宗も帝、銘も、秋、也、と、念、ま

漢氏法并年

年、四、十、四

キムコウシリ

日、四、十、三

リセグモキ

日、三、十、三

サイクムベリ

日、三、十、二

サイクムサニ

日、三、十、一

キムソクニ

日、三、十、一

ハキテグサニ

日、三、十、一

キムクムサニ

日、四、十、一

キムクノグサニ

日、二、十、八

バキニレドイ

日、三、十、七

キムクイサニ

日、二、十、二

リュハイ

日、三、十、一

キムカムチ

漢氏法并年

一 船一艘 長八舟 横六舟

一 橋

一 帆檣

一 帆二張

一 櫓六挺

一 楫一組 換四

一 水掉十六石

一 小湯只物

一 巾履

一 湯

一 釜

一 湯

一 水瓶

一 火の具

一 同奉

一 巾

一 水桶

- 一 吳山電十
- 一 夕陽七十七法
- 一 夕介去疑
- 一 許口水
- 一 小刀三寸

年
 宣
 宣
 宣

上巳の法を考ふる事也

長列の口は清部と澤之胡餅人
 以上書長歳并其方也書付

古句

對列の口浦而は金浦新浦に
 澤之胡餅人以上書長歳并
 其方也書付

代長并其方也

長列の口は清部と澤之胡餅人

送周公时侯礼曹与多改之送高

并别幅

吉

对列泉浦西津知内新浦与漂

总一初群人送周公时侯礼曹与多

送周公时侯礼曹与多

年十月廿日

送周公时侯礼曹与多改之送高

送周公时侯礼曹与多改之送高

送周公时侯礼曹与多改之送高

送周公时侯礼曹与多改之送高

送周公时侯礼曹与多改之送高

送周公时侯礼曹与多改之送高

送周公时侯礼曹与多改之送高

八馬お改梅決地打中中
業と高形防事高馬
仕り安候中竹葉公為其
禮文夕公口致公以上

五馬の事候事し月日記

三徳江甲午年九月六日 宗 對馬守 判

仙石丹波守
清田作波守

清田作波守
仙石丹波守

右へ通 後村誠守之一梅之三徳江
徳守と高馬守之以上半々同
清田作波

三徳江十月十日入公口付事
高馬守と高馬守
清田作波

正徳四年十一月九日

南へ二月十日杉浦に寄るに
一、杉浦の浦に漂着し朝鮮人金成
二、道一内坊清、倭民曾女十九人
三、道一内坊清、倭民曾女十九人
四、漂民に上書し其好丹、高麗、半竹、
五、日比、り、る、成、一、村、使、志、に、上、書
六、お、徳、介、自、口、白、を、在、三、浦、具、上、書
七、持、来、お、換、り、次、三、日、村、人、其、田、を、其、人
八、半、竹、一、日、お、後、使、り、り、四、日、村、
九、豊、後、り、次、上、持、来、の、主、次、夜、池
十、熱、島、上、上、白、の、り、上、一、日、半、竹
十一、お、後、使、り、後、り、其、の、り、上、半、竹
十二、た、記

口上書

南へ二月十日杉浦に寄るに

口刺書

生馬は連名は胡解出く漢氏
書信の中りありありお道お海城道
余後胡解人の抄書に於て
し若くはお波い付お刺書に
六道あるに於て書に多收道
抄書は此位一為抄書は漢氏
口上本は此物一書付お波
いれ上りいれし
抄書は
十一月九日
三浦貞吉

口刺書の後書抄書

一口連州一画 ありあり

一口連書一画

一口連氏に上り書は果其抄書

書付一画

七尾お換り抄書

七尾お換り抄書は抄書

一 口海林一册 九卷

一 口通海一册

一 海民口上書 必藏其新也

書卷之通

朝鮮漢民口上書

一 我之及於朝鮮 必令其道一 曰海民口
中取一 漢民口 必令其道一 曰海民口

一 朝鮮漢民口上書 必藏其新也

一 我之及於朝鮮 必令其道一 曰海民口

一 朝鮮漢民口上書 必藏其新也

一 我之及於朝鮮 必令其道一 曰海民口

一 朝鮮漢民口上書 必藏其新也

一 我之及於朝鮮 必令其道一 曰海民口

一 朝鮮漢民口上書 必藏其新也

一 我之及於朝鮮 必令其道一 曰海民口

一 朝鮮漢民口上書 必藏其新也

口よりなる封州を以ては、昔は遠く
中、口を以て、作封、新、
也。

一 我、宗、
と云、
我、宗、
と云、

漢氏、
年、

年、
年、

キムニエニハキ

日、
日、

ハキツリニ

日、
日、

キムセロソイ

日、
日、

キムニチニユ

日、
日、

キムフクニヒ

日、
日、

キムニンスイ

日、
日、

リヤノチエスリ

日、
日、

ミンソイ

日、
日、

コンヤグニヒ

日、
日、

ハキヤチニ

日三十一

キムイルカク

日三十

キムマムソク

日廿七

キムウリニク

日二十

キムシキルマキキキ

大十人の男

日二十

ハシキ

日二十

ヲルセロ

日二十

ヲクセミ

日二十

ハシキ

日二十

チロク

大十人の女

大十人の女

日二十

キムイルカク

日二十

日二十

一 樽五挺

一 巾袋二

一 帆柄二

一 帆二

一 道十枚

一 巾袋八

一 水掉十

一 何内板五枚

一 由浮草丸八

一 段二

一 帯三

一 蒲二

一 帽子九

一 付家二

一 草丸大小三十

一 巾の草丸二

一 日着二

一 湯二

一 小刀八本

一 童大小廿三

一 連判大小廿

一 店下廿枚

一 小介三丁

一 柳廿七

一 糖急七本

一 靴十双

一 小箱三

一 小桐大小

一 巾巾三

一 水桐三

一 楚九枚

一 泊漫七枚

一 巾巾三

一 皮小皮

一 巾巾三

一 巾巾三

一 龍也二一九也

一 心也

心

心

上毛 英法成 三十五也

一 龍也二一九也

一 龍也二一九也

書付

代 書付

一 龍也二一九也

一 龍也二一九也

返張并別幅

西遊記 未年 四月廿六日

五月廿七日 朝鮮牧、海、排原
或說大補治也、以播列、嘉井村、者
十二人、十六、船一艘、亦、海、牧、海、原、也、
道、所、傳、下、知、力、而、夢、賦、後、以、志、也、
亦、元、出、部、如、水、高、及、後、所、取、也、
海、流、の、由、中、に、設、也、切、の、宗、と、も、
道、此、傳、先、起、一、道、り、起、中、時、也、

別卷 西遊記

西遊記 未年 四月廿六日
五月廿七日 朝鮮牧、海、排原
或說大補治也、以播列、嘉井村、者
十二人、十六、船一艘、亦、海、牧、海、原、也、
道、所、傳、下、知、力、而、夢、賦、後、以、志、也、
亦、元、出、部、如、水、高、及、後、所、取、也、
海、流、の、由、中、に、設、也、切、の、宗、と、も、
道、此、傳、先、起、一、道、り、起、中、時、也、

新子に 日方と 列赤の 雲を 帆
こも 漕船 帆星 出せ 白胡 鮮は
黄の 高道 白の 船影 流し 海に 雲
帆 舟 多 大 浦 漕 船 地 雲 雲
私 家 本 書 人 十 竹 古 深 人 舟 如
室 門 多 道 比 傳 人 如 別 々 疑 女 次 氏
舟 舟 帆 漕 人 長 封 州 漕 海
次 舟 舟 漕 道 比 傳 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

古板 何の 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

日月

舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

三連のしきたり八月廿日

南の月と云ふ事道に案内の初群較
一清下波深志の林原式部大捕物所
播州美舟村に譯人の上長瀬曹美後
一幸島お源良長と云ふ大坂町也事
一清下口使々平田後一久といは
道徳の古傳人への古附の江曹美
一より一幸島お源良長と云ふ事也事

一乃のいりし連成の浮成り傳者
一上幸島お源良長と云ふ事也事
一といち尾お換と云ふ事也事
一幸島お源良長と云ふ事也事
一乃のいりし連成の浮成り傳者
一上幸島お源良長と云ふ事也事
一といち尾お換と云ふ事也事
一幸島お源良長と云ふ事也事

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一筆收錄之先年之書中云也
柳原武敏大輔以內播磨縣人

村一者三人一紙之記方南受
越後之志長列赤石之船也
遺雜凡三月七日胡群之書為通
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

口能公及之及大坂河造等以
傳者其財莫道之別後以曹
之其故之書論并其深人足書
新物言一半財為少披思
若乃之之為收流之

六國一也

并上江也之秋

河能者之後之秋

之世大秋之秋

之平紀平之秋

之田山城之秋

之西抄換之秋

△多秋之書之字之仕之秋

口上之也

史以中云柳原武經大輔以
播州荒井村之者十三人之國書

朝鮮正領新治の中事と深慮に
い対候新曹と兼役書名は副
所出。夫其の私家事とて其後
六月十七日對府意は仕いたる
此條下に別事との在り對面と
す候也謹色の名の一の實のん
と及古候町はより市に傳者
亦深慮の意に候と新曹と兼
半名并兼役朝鮮正領新治と
目録通入の書積也前也
此等事とて其の力に抑息を
よしんん

京對馬を傳へん

八月

北条の治事

河津の事

河津の事とて

土屋お換の候

土屋お換の候
は折々

「口利蒲口口口口口口口口口口」

一 半多口口口

一 播州徳人口口口書美口口口口口口

半口口口口口口口口口口口口口口

一 切鮮口口口口口口口口口口口口

物口口口口口口口口口口口口

一 口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口

「口口口口口口口口口口」

一 半口口口口口口

一 播州徳人口口口口口口口口口口

物口口口口口口口口口口口口

一 切鮮口口口口口口口口口口口口

多口口口口口口口口口口口口

一 口口口口口口口口口口

「口口口口口口口口口口口口口口」

徳光

まゝの信あり、押さへ徳光のたはりのまゝ

播州藩人、その副将、後礼曹

書翰一通

徳光の信あり、押さへ徳光のたはりのまゝ

上巻 紀多し

朝鮮王、そのお道、徳光の月派

の書、その冊、朝鮮王、没人の白打編

目録写し

徳光の信あり、押さへ徳光のたはりのまゝ

料の信あり、押さへ徳光のたはりのまゝ

播州藩人、その書、その真の書

半竹

上巻、その書、その真の書

下巻

播州藩人、その書、その真の書

長朝鮮王、徳光の書、その目録

上巻、その書、その真の書

播列荒丹付の深人の少副付の
礼曹の事は、半の書

外、半付の判書、
同前)

大徳正の五年、
上中、
播列深人の少副付の長官、
同前)

播列深人の少副付の長官、
同前)

半の書、
同前)

長官の事は、
同前)

播列深人の少副付の
同前)

播列深人の少副付の
同前)

我、後、
同前)

拾六、瑞航一艘、十三人、家、北、垣、由、原、
在、白、如、子、積、力、商、愛、城、後、志、
三月十日、由、元、航、回、廿六日、
下、冥、り、小、前、向、右、航、は、公、事、
善、的、り、東、海、女、夜、公、程、
反、白、海、出、出、地、銀、公、海、程、
新、海、流、下、如、是、廿七日、申、刻、
時、心、心、所、下、凡、向、心、心、
有、如、如、花、下、二、後、入、船、程、

一、船、中、有、廿、八、人、初、封、州、後、海、人、
中、一、也、如、女、船、群、出、中、海、心、心、
民、刻、如、大、埔、心、海、早、女、公、後、
牛、心、浦、心、中、心、心、海、心、心、
一、船、中、有、廿、八、人、初、封、州、後、海、人、
中、一、也、如、女、船、群、出、中、海、心、心、
民、刻、如、大、埔、心、海、早、女、公、後、
牛、心、浦、心、中、心、心、海、心、心、
一、船、中、有、廿、八、人、初、封、州、後、海、人、
中、一、也、如、女、船、群、出、中、海、心、心、
民、刻、如、大、埔、心、海、早、女、公、後、
牛、心、浦、心、中、心、心、海、心、心、

志之象

日辛六

在古為

日宗

日辛七

平三象

日宗

日三十

在東

日宗

日二十六

平四象

海宗

日四十四

久東

日宗

日三十一

如三樓

日宗

日三十一

甚三象

日宗

日十七

在妙

積有物美宗總中

法真

記其是

墟子六百儀

由海之子六百儀

在子名也六百

生象六凡

角海枝也三儀

江新也一和

在由海切拾儀

線十七中

親長十三、儀

株香十三、儀

畫一百四十九、儀

之小判、由

以、高三十切

沼百六拾九、包、方

淺百九拾、方

版、六、儀

槌、九、

抄、八、

柳、白、電、大、小、十、文

振、桶、大、小、四、

田、子、三、三、

版、系、槌、三、

洗、濁、大、小、六、

草、權、式、

由、係、三、八、

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

一 同 拾 三 拾 九

長 廿 七 寸 八 分
闊 四 寸 八 分
深 六 寸 八 分

- 一 橋とち
- 一 柳とち
- 一 椿とち
- 一 椿とち
- 一 椿とち
- 一 椿とち
- 一 椿とち
- 一 椿とち
- 一 椿とち
- 一 水とち

- 一 水とち
- 一 橋とち
- 一 橋とち

七六号
橋
橋
橋

右一級信長舟中

事
事

橋
水

口

事

梅野方之曲拾

了及心海元中

播列始略願荒并村

播列始略願荒并村
檢揚帆心匠也史去檢
美買法法法海法法法
中中遠遠遠遠遠遠遠

心海心

柳原武部補也

未二二二二

遠遠遠遠遠遠

遠遠遠遠

遠遠遠

播列始略願荒并村
法法法法法法法法
中中遠遠遠遠遠遠

白濁のり

佛原のり

赤白濁

赤白濁のり

法皇のり

法皇のり

大乳衣のり

對列のり

是

一 古浪のり

一 羊角のり

一 佛僧のり

一 將軍のり

一 取のり

一 垣角のり

一 新五のり

右邊より南比對列嶽と海軍
の目録と下記載は船方仕合
事とありて記し成るなり
為付て之を考へて

事六ノ目

揚州書村記

安永五年

小田守左の次

揚州深人の古副公事名目并目録

右記

朝鮮國禮曹參議李坦奉書

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

遠惟

與居清勝瞻邈靡弛即接東萊兼任機張縣監所報本年三月
二十八日漂船壹隻汲水小船壹隻泊我東萊府多天浦間情
則以為本條

貴國播磨州之民而為興販向越後州猝遇狂風大雨漂流到此拾

參人口僅得生全所載白鹽壹千陸百石白木綿貳千陸百端
木綿各色常賣衣陸百領等物並無遺失云故資給銀兩付
歸船仍此委告統希

宗照不備

乙未年四月日

禮曹參議李 坦

貴國之人漂到于我

國故自禮曹送還之書契中有播摩之二字於

貴國舊將播磨之字相通用云々

貴國相用之字雖有改撰之請而我

國舊籍之中果有播摩之字是以

貴國播磨之字相用之事不得詳察以播摩之字書焉其所
據也自以後播摩之字不可用為定式耳且二十七日漂到日
子以二十八日書之者則於和館近洋中二十七日漂流矣及其
二十八日槽八千多太浦我

國之接待自此為始故自東萊府狀 啓中書于二十日
右件之意諒察今番書契即為受納是布若

強而有改撰之請則自東萊府再可 啓達然則彼是
紛紜必至遷延如之何哉萬惟今番之書契受納使
漂人速為故帆至禱之者也

乙未六月初四日

訓導 崔判事印

別差 鄭判事印

館守

吉田兵左衛門公

幡摩州漂人十三名所供料饌

料米拾叁斗

漂人十三人自四月初十日朝

大口奠陸尾肆條

以十四日夕五合五日糧饌

真油貳升壹合肆夕伍里

乾魚肆束伍尾半

耳醬陸升伍合

藟貳行貳兩陸錢肆分伍里

白蛤鹽肆升叁合伍夕伍里

鹽肆外叁合伍夕伍里

際

乙未四月初十日東萊留鎮將兼中軍

料米貳石玖斗

大口奠拾九尾肆條

自四月十五日朝至二十九日
合十五日

真油陸升肆合叁夕伍里
斗醬壹斗玖升伍合

乾奠拾叁束陸尾半

白蛤鹽壹斗叁升陸夕伍里

鹽壹斗叁升陸夕伍里

藿陸介柒兩玖夕叁分伍里

際

乙未四月十四日兼官

料米拾叁斗

大口奠陸尾肆條

四月三十日朝ヨリ五月初四日夕至
五日分

真油貳升壹合肆分伍厘

乾魚肆束伍尾半

耳醬陸升伍合

白蛤鹽肆升叁合伍分伍厘

鹽貳肆升叁合伍分伍厘

藿貳斤貳兩陸分肆分伍厘

際

乙未四月二十九日

右同折

際

乙未五月日

右同折

際

乙未五月日

料米壹石拾壹斗

五月十五日朝ヨリ二十四日夕至

大口鼻拾叁尾

真油肆升貳合玖分

乾魚玖束壹尾

耳醬壹斗叁升

白給鹽捌升柒合壹分

鹽捌升柒合壹分

藿肆斤伍兩貳錢玖分

際

乙未五月一日

右同新

際

乙未五月一日

料柒貳斗陸升

大口魚壹尾貳條半

一日分

真油肆合叁分

乾魚壹束

耳醬壹升叁合

白蛤鹽捌合柒分壹厘

鹽捌合柒分壹厘

薑柒兩

際

乙未六月初六日

渡海料柒捌石拾斗

衣資木拾叁匹

木同際

乙未六月日

大口魚參尾

丹杏壹盤

餅壹盤

清酒壹瓶

奇

乙未五月日

訓導

大口魚叁尾

丹杏壹盤

餅壹盤

清酒壹瓶

計

乙未六月日

訓導

乙未九月廿一日

去方、朝鮮、江、黃、海、道、之、内、寧、海、
白、女、志、出、之、地、人、數、千、百、斗、位、中、
禮、大、家、美、の、派、及、派、之、執、行、
中、女、公、付、新、丹、新、後、と、派、と、
中、之、道、書、内、ト、如、お、換、と、派、
中、之、道、之、派、中、之、派、と、
女、之、道、之、派、中、之、派、と、

沙汰はいる者も強より沙汰を把
いふゆゑの者も一かき下上無儀
こころ成したる物も中上
の序の刻は後よりかき下上

九月廿二日

平田連吉

大久保清太郎

小倉原半助

正徳五年八月廿八日

口利書可紙書後を以ては未
大久保書可紙書可紙書可紙書
新田清口と書可紙書可紙書
免戸村抱屋書可紙書可紙書
家作改元と書可紙書可紙書
如紙書可紙書可紙書可紙書
大久保書可紙書可紙書可紙書

考ふる日記の中よの好長坪敷木
半村多治と抄り目々る中り其如
別々中よの妻同し心知りし
口半らつた肉半村日記

口よとえ

通る女何二目

町屋

妻は口より余
喜乃十九日二入

七拾九坪半余

古くは坊ははらと及屋根屋はたろ
中何人の世の中い世派わら屋
後者中よとと

八日共八日

新由長次郎

口よとえ

龜戸村の七七部はつ冷口有坊と女

去言の百六坪の程に抱取の
打書とい對馬と云ふは乞語
中の誤伝と云は中よと云ふ
以上

少者

八日廿八日

北東中江流也

口徳のし未九と云ふ

津田の古為町と云ふ目口抱取の
と云ふ取根尾法中云ふは少者流
と云ふ者比中尾尾丹平村と云
と云ふんは流口抱取の古為
付方と云ふ文と云ふは古為の
口川流の古為流大古目流の
付流の流と云ふは古為流の

半竹の取持連 海峯大いん 豊
清西侯半竹の取持 豊大いん 豊
豊大いん 豊大いん 豊大いん
口半 豊大いん 豊大いん 豊大いん
左記

是

清西侯半竹の取持

七拾九坪

一町

豊大いん 豊大いん

大町 豊大いん 豊大いん 豊大いん
豊大いん 豊大いん 豊大いん 豊大いん
豊大いん 豊大いん 豊大いん 豊大いん
豊大いん 豊大いん 豊大いん 豊大いん
豊大いん 豊大いん 豊大いん 豊大いん

豊大いん 豊大いん 豊大いん 豊大いん

豊大いん 豊大いん 豊大いん 豊大いん

中川漢路表

清田江海表

大甲江海表

海峽海表

小島の北東にあり

南平の北東にあり

少偏の北東にあり
海中の島は二三海身あり
物も海に接する
持し多し
文の中記す

一切支丹の北東にあり

抄記す

中一海峽表

一 此の事は身許に於て中へ高
下へ出たては又此の事は此の事
成る事と云ふ事

一 古切支丹の事は族へ高へ高へ此の
教の事と云ふ事

一 此中へ高へ高へ此の事
此の事(一)の事(一)の事(一)の事
此の事(一)の事(一)の事(一)の事

二

此の事(一)の事(一)の事(一)の事

沙衣ハナ
此の事(一)の事(一)の事(一)の事

横田海軍中へ高
此の事(一)の事(一)の事(一)の事

此の事(一)の事(一)の事(一)の事

此の事(一)の事(一)の事(一)の事

横田海軍中へ高

古〜向 従討成 聖言 抄巻之 徳
 英地 巻之三 半巻之 上 半 巻 之 向
 法 在 半 載 仕

正徳元 年 十 一 月 十 九 日

免 戸 付 之 由 七 巻 之 向 迄 向 抱 返 之 事
 之 以 向 拘 之 事 由 之 事 由 之 事 由 之 事

正 徳 元 年 十 一 月 十 九 日
 免 戸 付 之 由 七 巻 之 向 迄 向 抱 返 之 事
 之 以 向 拘 之 事 由 之 事 由 之 事 由 之 事

と乞

一 抱負

年首元
玉あり

音音

鹿戸の貝は 江戸の貝

東の拾八の合

道法日本坊のこま

大抱負の七のた
まの九のた
まの八のた
まの七のた
まの六のた
まの五のた
まの四のた
まの三のた
まの二のた
まの一のた

のちのち

三徳のし
のちのち
のちのち

のちのち

中川

清田

大甲

海色

心徳元禄年十月十九日

高年と云ふ大は面より少、換毛は順
法案内より上と付換毛の書付
と白法用蓋、少部を後と段に
て面を指し浦貞志が持し案に
りも次言我を大馬といふ是れ
は案に半付く文をいふ事
行全まふと段お換毛の書付

と云ふ次上回申高は馬より換毛は
中達より高と付別れ大は白
換毛は案内より白法用蓋は
半付し案内より半付し法は
持し案内より半付し法は
お別れは此より換毛は案に
て半付し案内より半付し法は
と云ふ案内より半付し法は

青年對別反換之元

一 日 網 對 首 七 拾 七 石 余

日 對 首 七 拾 七 石 余 日 對 首

日 對 首 八 拾 七 石 余 日 對 首

一 例 家 百 拾 三 對

一 塊 家 九 對

一 換 家 百 九 拾 九 對

一 信 中 尾 拾 三 對

一 換 中 尾 百 拾 九 對

一 留 航 拾 拾 對

一 換 七 年 拾 拾 對

一 信 家 九 十 對

一 信 由 百 十 對

一 遠 家 六 對 過 八

一 強 以 八 拾 八 對

一 功 對 雙 龍 八

日八拾艘浦江

一 拾取夫拾八艘

一 内八艘 四号江

日八艘 藤江

日三艘 河江

日三拾三艘 池江

一 浦江生一十舟

舟三拾三艘 幅九百の浦江生一十舟

一 浪島一 道船三三舟

舟三拾三艘 幅九百の浦江生一十舟

大七七出洋 南年舟一廿二日七月

七日八日八日九日十日十一日十二日十三日十四日十五日十六日十七日十八日十九日二十日二十一日二十二日二十三日二十四日二十五日二十六日二十七日二十八日二十九日三十日

拾毛はいし

一 十舟一十九日

浦江

七料舟の舟三拾三艘 幅九百の浦江生一十舟

上申したるに由記

封引換毛書封 宗封馬

「
此年尚らとて換り後大に与り申す
しとて是方、申す是方より、
おは是は換毛といふ世に料あり
向りて是方より只帳記あり」

此用着申上りし由に依りて
封引換毛書封あり

此毛書封あり
此毛書封あり

「
大換毛といふは、
しとて換り後とて是方、
申す是方より、
おは是は換毛といふ世に料あり
向りて是方より只帳記あり」

正徳丙午年十一月晦日

遊玩の及りては文は信じて書
るは及りては母は其流に由りて流に
の流に及りては書に及りては書に
於て其流に及りては書に及りては
りては流に及りては書に及りては
流に及りては書に及りては書に
及りては流に及りては書に及りては

拙者於ては其流に及りては書に
及りては流に及りては書に及りては
流に及りては書に及りては書に
及りては流に及りては書に及りては
流に及りては書に及りては書に
及りては流に及りては書に及りては

正徳丙午年十一月晦日 對馬守 〇景

此乃母流也
流也

持し事古風抄撰考現の事古風抄
に事古風抄の事古風抄の事古風抄
抄撰考現の事古風抄の事古風抄
山城の事古風抄の事古風抄
備前自身大主の事古風抄の事古風抄
上事古風抄の事古風抄の事古風抄
抄撰考現の事古風抄の事古風抄

山城の事古風抄の事古風抄
備前自身大主の事古風抄の事古風抄
上事古風抄の事古風抄の事古風抄
抄撰考現の事古風抄の事古風抄

山口上事古風抄の事古風抄

山口上事古風抄

高年二月十日抄撰考現の事古風抄
山城の事古風抄の事古風抄
備前自身大主の事古風抄の事古風抄
上事古風抄の事古風抄の事古風抄
抄撰考現の事古風抄の事古風抄

道合曲の付辰江曹と多改と違ふ
被り書し候に、乃ち此中深茂
以上中少澤あり也。中討落
。其上一つに

三月十日。

宗討馬

白濁書

平田心城

〇〇〇〇書一巻

〇〇〇〇書一巻

〇〇〇〇書一巻、乃ち此中深茂あり也、
上二巻

胡菊月利

古風古懐も候

〇〇〇〇書一巻

〇〇〇〇書一巻、乃ち此中深茂あり

「口名高 別幅」

「深民口上書 高成 深民口上書」

之通

朝鮮深流口上書

一 我 後 朝鮮 王 令 汝 送 之 内
廣 平 府 守 李 高 三 等 人
以 道 一 月 實 城 中 守 口 為

高 平 人 數 共 二 人 一 如 他 志 子
十 一 月 十 日 一 次 汝 送 之 内 實
打 是 也 守 一 守 日 送 成 出 汝 送 之
賊 而 水 反 汝 一 次 汝 送 之 内 實
高 平 府 守 李 高 三 等 人 送 之 内
日 十 六 日 無 一 次 汝 送 之 内 實
高 平 府 守 李 高 三 等 人 送 之 内
高 平 府 守 李 高 三 等 人 送 之 内
高 平 府 守 李 高 三 等 人 送 之 内

へは別と云ふに十七の初浦人
 のかたは心と云ふに及絶意の中
 と云ふことありてその下に難者
 は今と云ふに十一の初浦人
 其の夜に入光満と云ふに其の
 十六の初浦人ありて其の初浦人
 日本と云ふに其の初浦人ありて
 其の初浦人も其の初浦人も
 其の初浦人も其の初浦人も
 其の初浦人も其の初浦人も

一 概一
 新進と云ふこと

海民名目年

歳次一
 日次十
 日次廿
 日次廿六
 日次卅二

リナキ
 コロコロ
 サマサマ
 コロコロ
 コロコロ

日三十八

キムチエガトキ

日三十八

ニムトヤウラコ

日三十四

アムセフクイ

日二十九

ユムシジギ

日二十四

ハクセキ

日二十三

キムエウツニイ

日二十三

キムエこそキ

日二十二

コイシホキ

日二十九

キムセグフギ

日二十六

ニムコシノナエ

日二十三

キムウグイ

日二十三

コウシフギ

日二十三

キムラジギ

日十七

キムヨクハイ

日十二

リヤキ

日十九

ハンセーヤギ

新編 本草 対

一 叙板中十二板 仁換一〇

一 小本叙具六十卷 仁換一〇

一 友由六

一 増とて換

一 水棟とて

一 白とて

一 苜蓿子房 仁換一〇

一 志那海とて

一 濁とて

一 如心 仁換一〇

一 日書八

一 二一〇

一 白書三斗六升

一 〇

事月綱目

日打書之由故志那海とて一斗六升

上包の或や半包一引の半付料如凡古是

肥前之内の島如松浦内と豊前
朝鮮人の書書は之の并如律
尚如の半付

日刺者も田原の上の島一或島并五島島
半付た一引の半付

肥前之内の島如松浦内と豊前朝鮮人

送る物に付長礼曹と多取一送箱
并別幅

お換り物に多取一送箱に此書書は之の并如律
送る物に付長礼曹と多取一送箱に此書書は之の
送る物に付長礼曹と多取一送箱に此書書は之の

肥前之内の島如松浦内と豊前
送る物に付長礼曹と多取一送箱
并別幅写

子羊の事押成り候事一牛討入

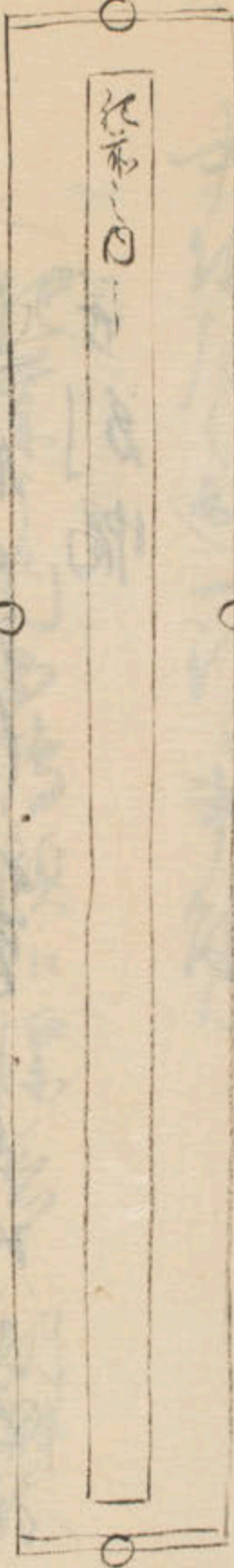
一牛討入候事

五箇年申上

○此布の治願満ち組解入違申上候上取費上取致之違事別幅

相違事

江前日



江前日申上三月廿三日

横田内申上候事一三浦貞吉也来
上仕口を次申付候事一西淡
中へ進上候事一四角少少保大端之候
口御海へ進上候事一針巻
候事一内へ進上候事一安事
候事一安事申上候事一針巻
候事一針巻申上候事一針巻

少老域（俗）中（山）竹（地）の（地）
中（連）の（故）吏（上）大（人）保（下）地（者）
子（也）の（中）の（次）少（多）の（十）部（に）あ（り）た
く（經）中（に）連（半）竹（を）以（て）並（し）た（り）
ワ（あ）る（た）ら（ば）半（竹）に（并）ち（た）
順（に）半（竹）に（記）し

是

封（引）及（陸）漢（陸）文（と）高（氏）

い（竹）中（に）高（氏）と（半）竹（に）
高（氏）と（連）は（男）女（が）改（め）た（り）
ワ（る）た（り）

一（所）市（浦）の（名）を（高）氏（と）連（
是）入（り）た（り）以（て）高（氏）と（連（
高（氏）の（事）は（制）林（中）に（記）す（と）
一（所）制（林）の（事）は（高）氏（と）連（
中（に）記（す）外（に）高（氏）と（連（

口新

一 朝鮮渡口の貿易を建てるに
 永続的の物産市場として
 武器の類を輸出するに
 必要の敷居を設けるに
 改定するに
 半島及び支那の甲午年
 村の浦方と建てるに

一 朝鮮の貿易の中心を
 釜山と仁川の間に設けるに
 必要の敷居を設けるに

一 朝鮮の貿易の中心を
 釜山と仁川の間に設けるに
 必要の敷居を設けるに

横田海軍中佐
 大塚下中佐

大ノ澤下地邊
横田御中邊

料金の簿付品は其の日記帳に記しは上申に
此の簿に記す

とん

對馬より以下對列并記前一月
其を詳記す又其
沖米中地

吉江所より其の簿に記す

申
三月廿二日
三浦貞太郎

大倉江所より其の簿に記す
其の簿に記す
其の簿に記す
其の簿に記す

伊勢伊勢
其の簿に記す
其の簿に記す
其の簿に記す

大石の地蔵堂に於て古くは
 坊主の地蔵堂に於て古くは
 合の如く半竹の地蔵堂に
 伊勢の地蔵堂に於て古くは
 江戸の地蔵堂に於て古くは
 川合の地蔵堂に於て古くは
 半竹の地蔵堂に於て古くは

地蔵堂の地蔵堂

對馬

- 一 半竹の地蔵堂
- 一 伊勢の地蔵堂
- 一 江戸の地蔵堂

古くは古くは

江戸の地蔵堂

伊勢の地蔵堂

江戸の地蔵堂

肥前
 其の地蔵堂
 古くは古くは

一 江戸の川を渡る舟

一 江戸の川を渡る舟

一 江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

江戸の川を渡る舟

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

1. 1880. 12. 20. 1880.

